

令和5年度事業報告



日本赤十字社佐賀県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

日本赤十字社佐賀県支部事業報告

□ 令和5年度 佐賀県支部のビジョン（目標）	1
□ はじめに	2
1 災害救護活動	3
2 国際救援活動	15
3 救急法等の講習普及	19
4 赤十字奉仕団活動	23
5 青少年赤十字（JRC）活動	31
6 赤十字思想の普及	39
7 赤十字会員及び活動資金の増強	46
8 支部評議委員会の開催	49

唐津赤十字病院事業報告

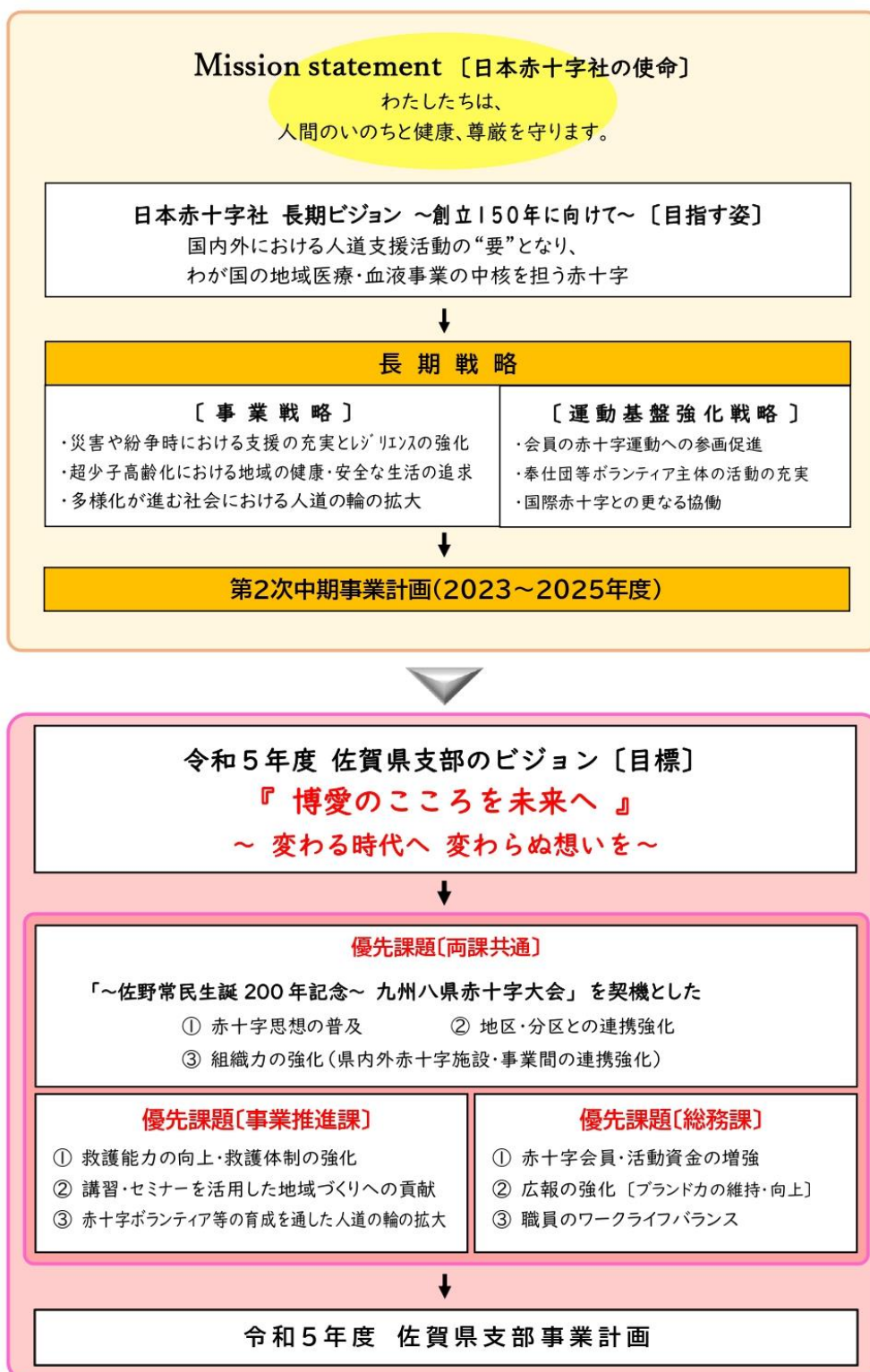
□ 令和5年度の融点的取組み	50
1 安心・安全な医療の提供	52
2 地域医療連携の強化	56
3 働き方改革の推進	58
□ 佐賀県支部の組織・役職員	59
□ 日本赤十字社佐賀県支部の現勢	63

令和5年度 佐賀県支部事業報告

赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和5年度は、『博愛のこころを未来へ ～変わる時代へ 変わらぬ想いを～』をテーマとして掲げ、下記のビジョン（目標）を踏まえ、各事業を実施しましたので、ご報告いたします。

令和5年度 日本赤十字社佐賀県支部のビジョン(目標)



はじめに

令和5年度の佐賀県支部の主な取り組みと成果は以下のとおりです。

【「佐野常民生誕200年記念 令和5年度九州八県赤十字大会」の開催】

令和5年度の佐賀県支部は、ビジョン（目標）に沿って、「～佐野常民生誕200年記念～ 令和5年度九州八県赤十字大会」の開催に総力を挙げて取り組みました。大会テーマは「博愛のこころを未来へ」。清家篤日本赤十字社社長の出席のもと、日ごろから赤十字をご支援いただいている方々への感謝と、若い世代への赤十字思想の継承を目的に、11月にSAGAアリーナで開催しました。

おかげさまで九州各県の参加者から好評をいただき、また、開催にあたっては、県内赤十字施設をはじめ、地区・分区や赤十字ボランティアの皆さまの多大なるご協力をいただきました。佐賀県支部とのさらなる連携の強化につながったと考えています。

【令和5年7月九州北部豪雨災害及び令和6年能登半島地震災害における救護活動

並びに「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」の新設】

令和5年7月九州北部豪雨により、佐賀県内でも唐津市や佐賀市を中心に土砂災害が発生するなど大きな被害が生じ、佐賀県支部では市の災害ボランティアセンターに看護師や赤十字ボランティアを派遣しました。

また、令和6年1月には最大震度7の能登半島地震が発生し、地震に伴う家屋倒壊や津波、火災で多くの方が被災されました。日本赤十字社は迅速に対応し、佐賀県支部も石川県への医療救護班3班及び災害医療コーディネートチーム1班を派遣し、避難所などで支援活動を行うとともに義援金を募集しました。

また、災害救護体制の強化を図るため、令和5年4月に、佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターで構成する「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」を新たに設置し、救護活動と救護人材の育成に係る諸課題と対策に取り組みました。

【「救急法指導員」が新たに10名誕生】

令和2年度から4年度にかけての3年間、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により佐賀県支部の各種赤十字講習も縮小や工夫を余儀なくされましたが、令和5年度は5月に同感染症が5類に移行したことに伴い、各種赤十字講習への需要が高まりました。中でも救急法においては、9年ぶりに「指導員養成講習」を開催することができ、自身で講習会を開催できる資格である「救急法指導員」が、新たに10名誕生しました。

【「九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会」を開催】

令和5年8月、青少年赤十字活動の中核となる指導者（教師）の育成を目指し、佐賀県で「九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会」を開催しました。参加者はフィールドワークなど学校教育の中に活かす青少年赤十字のプログラムに取り組みました。

□事業内容

Ⅰ 災害救護活動

災害救護は、日本赤十字社の第一義的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による災害に対しても被災者支援を実施しています。

令和5年7月大雨災害及び令和6年能登半島地震災害に際しては、発災直後から情報収集を行い、医療救護班や看護師、赤十字ボランティアの派遣を行うなどの支援活動を展開しました。

また、令和5年4月に佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターで構成する「災害救護委員会」を設置し、三施設の緊密な連携を通じて、救護体制の強化に取り組みました。

さらに、救護員の能力を向上するため、災害対策本部運営訓練や二部制の常備救護班要員研修会、救護班主事研修会などを実施し、迅速かつ効果的な救護を実現するための実践能力を高めました。

(1) 国内災害救護活動

ア 『令和5年7月7日からの大雨災害（令和5年7月九州北部豪雨）』

7月10日（日）から第1次救護体制を敷くと共に、佐賀県災害警戒本部へ職員1名をリエゾン派遣し、県内の被災状況の把握に努めました。

(ア) 災害ボランティアセンターへの看護師等の派遣

災害ボランティアの活動中の熱中症や怪我の応急対応を行うため、唐津市災害ボランティアセンターには、唐津赤十字病院より看護師を派遣し、佐賀市災害ボランティアセンターには、看護師や赤十字救急法指導員の資格を持つ赤十字ボランティアを派遣しました。

○ 唐津市災害ボランティアセンター

派遣期間：7月14日（金）～23日（日） 9日間

活動場所：唐津市災害ボランティアセンター

派遣職員：唐津赤十字病院 看護師 13名

○ 佐賀市災害ボランティアセンター

派遣期間：7月22日（土）、23日（日）、8月12日（土） 3日間

活動場所：佐賀市災害ボランティアセンター

派遣要員：日本赤十字社佐賀県支部職員（看護師資格）延2名

赤十字ボランティア 5名（所属は下表）

所 属	氏 名	派遣日
佐賀県赤十字看護奉仕団 佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	鈴木 容子	7月22日（土）
佐賀県赤十字看護奉仕団	田中 恭子	7月22日（土）
佐賀県赤十字看護奉仕団 佐賀県赤十字水上安全奉仕団	岩城 珠美	7月23日（日）
佐賀県赤十字救急法奉仕団	瀬戸 弘美	7月23日（日）
佐賀県赤十字看護奉仕団	上田 砂智美	8月12日（土）

(イ) 救援物資の配送

避難所となった浜玉公民館に毛布 60 枚、安眠セット 60 個、緊急セット 36 個、バスタオル 60 枚、タオルケット 60 枚を配布しました。

(ウ) 災害ボランティアセンターへの資材配送

県社会福祉協議会からの依頼を受け、大町町の資機材保管用倉庫から唐津市災害ボランティアセンターに、土砂撤去等に必要な資機材を赤十字ボランティア（所属は下表）の協力を得て搬送しました。

所 属	氏 名	派遣日
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	一ノ瀬 安信	7月13日（木）
佐賀県赤十字看護奉仕団 佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	鈴木 容子	7月13日（木）



イ 『令和6年能登半島地震災害』

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、発災直後から情報収集を開始し、1月4日（木）から第1次救護体制、1月9日（火）から第2次救護体制に移行して、被災地である石川県を支援しました。

(ア) 医療救護班の派遣

避難生活が長期化する中で避難者に対する健康観察やエコノミークラス症候群の予防・啓発、避難所環境の助言・整備を行い、避難者のいのちと健康を守ることを目的に医療救護班を計3個班派遣しました。

○第一班 活動場所：石川県七尾市

派遣期間：1月13日（金）～17日（水） 5日間

※車両班は1月12日（金）～17日（木）

派遣要員：唐津赤十字病院 医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名

日本赤十字社佐賀県支部 主事1名

赤十字ボランティア 自動車操作要員 1名（所属は下表）

所 属	氏 名	派遣日
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	一ノ瀬 安信	1月12日（金）～17日（水）

○第二班 活動場所：石川県七尾市

派遣期間：1月25日（木）～29日（月） 5日間

派遣要員：唐津赤十字病院 医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名
日本赤十字社佐賀県支部 主事1名

○第三班 活動場所：石川県七尾市

派遣期間：2月4日（日）～9日（月） 6日間

派遣要員：唐津赤十字病院 医師2名、看護師長1名、看護師2名、主事2名



(イ) 日赤災害医療コーディネートチームの派遣

被災地行政や他の医療救護チームと連携・調整を行うとともに、全国から集結する赤十字救護班に対し専門的な助言等を行い円滑な活動を支援することも目的に、日赤災害医療コーディネートチームを1個班派遣しました。

○日赤災害医療コーディネートチーム

活動場所：石川県能登町

派遣期間：2月14日（水）～20日（火） 7日間

派遣要員：唐津赤十字病院

医師1名、看護師1名、薬剤師1名

日本赤十字社佐賀県支部

主事1名



(2) 救護体制の強化

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内3施設が、これまで以上に密な連携体制を構築し、救護体制の強化を図るため、令和5年4月、3施設の幹部職員による「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」を設置しました。この委員会では、災害救護に関して即時解決が必要な課題だけでなく、救護人材の育成など中長期的な視点からの課題に対しても協議し、解決に努めました。

・第1回：4月19日（水）

・第2回：書面審議

・第3回：12月14日（木）

・第4回：1月4日（木）（令和6年能登半島地震に伴うWEB会議）

・第5回：書面審議

主な協議事項

- 「日本赤十字社佐賀県支部救護員育成体系要綱」の制定及び「救護員ランク認定」について

令和6年度から全社的に標準化される救護員育成体系を、佐賀県支部が従来から独自に行ってきた訓練・研修に反映させる方策について協議しました。その結果、救護員を研修受講歴や災害派遣経験、災害救護への関与意欲に応じて、S・A・B・Cでランク管理し、スキルの向上を図る、新たな「日本赤十字社佐賀県支部救護委員育成体系要綱」を制定しました。

救護員ランクSの職員は、研修・訓練で指導的な役割を担い、災害救護能力向上の中心的な役割を果たすこととし、本人の意志を確認の上、災害救護員会で認定することとしました。

- 「令和6年度日本赤十字社佐賀県支部事業計画」について

災害救護に関する令和6年度の事業計画を、災害救護委員会の協議を経て決定しました。

イ 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5個班（唐津赤十字病院3個班、佐賀県赤十字血液センター1個班、佐賀県支部1個班）30人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区分	医師	看護師長	看護師	主事	計
1個班の編成基準	1名	1名	2名	2名	6名

ウ DMATの編成

「DMAT」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」です。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、日本DMAT3チーム（1チーム医師1名、看護師2名、主事1名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。



(3) 個々の救護員の能力向上

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害対策本部運営訓練、令和元年、3年の豪雨災害において被災地県支部として災害対策本部を運営した経験や反省を引き継ぐとともに、次に来る災害対応を円滑に行うため、支部職員11名を対象に運営訓練を実施しました。

コントローラーとして、佐賀県赤十字血液センター職員1名と赤十字防災ボランティア1名が参加しました。

・日 程：6月30日（金）



イ 常備救護班要員研修会【2部制】（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

令和3年度より実際の救護活動を踏まえて施設ごとに対象職員を2部に分け、救護活動の経験と最新の知識・技術を取り入れながら、より実践的で充実した研修を実施しました。

【第1部】

・主な内容：応急対応に係る救護班要員としての基礎訓練

・対 象：唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員

・日 程：6月3日（土）～4日（日）

・場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂、唐津市相知天徳の丘社会体育館

唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員18名及び訓練スタッフ等17名の総勢35名が参加しました。今年度は他機関との連携を目的に佐賀県災害派遣福祉チーム（佐賀DCAT）に参画していただき、避難所アセスメント実習の際には避難者役を担ってもらうなど研修の充実に努めました。

○ 訓練内容

- ① 赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ② 赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③ 救護体制と救護班
- ④ 救護班の編成と管理運営
- ⑤ 日赤の救護活動の実際
- ⑥ 出動命令が出されたら
- ⑦ 1次トリアージ
- ⑧ 情報収集と管理（無線の取り扱い、クロノロジー記入）
- ⑨ 職種別演習（医師・看護師：2次トリアージ、主事：無線等）
- ⑩ こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑪ 救護活動時に使用する各種様式
- ⑫ エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑬ 救護シミュレーション（急性期対応）
- ⑭ 避難所アセスメントシミュレーション



エアテント内での
救護シミュレーション

【第2部】

・主な内容：支部災害対策本部運営及び本部支援

・対 象：佐賀県赤十字血液センターの救護班要員

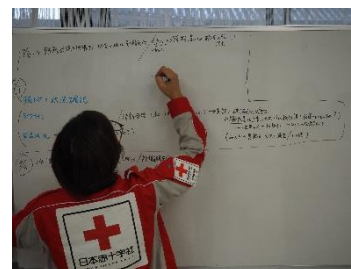
・日 程：6月30日（金）

・場 所：日本赤十字社佐賀県支部 2階会議室他

佐賀県赤十字血液センターの救護班要員6名及び訓練スタッフ5名の総勢11名が参加しました。雨災害の対応経験を基に、感染防止対策を徹底しながら実践的なカリキュラムを実施しました。

○ 訓練内容

- ① 赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ② 赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③ 赤十字の救護体制と支部の役割
- ④ 日赤の救護活動の実際
- ⑤ 出動命令が出されたら
- ⑥ こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑦ 『支部災害対策本部立ち上げのシミュレーション』（レイアウトと解説）
- ⑧ 『避難所アセスメントのシミュレーション』（環境・健康アセスメントと報告まとめ）
- ⑨ 『日常生活における災害への備えについて』（自助・共助・BLS）



【運営委員会】※救護班要員研修会の実施にかかる企画・運営を行う。

- 4月19日 第1回運営委員会（唐津赤十字病院）
- 5月17日 第2回運営委員会（ // ）
- 8月23日 第3回運営委員会（ // ）

ウ 九州八県支部合同災害救護訓練

日本赤十字社第6ブロック各県支部による被災地支部の支援に係る各種連絡・調整等、具体的な行動の検証を行い、被災地県支部災害対策本部機能及び6ブロック各県支部による支援体制の充実・強化を図ることを目的に、鹿児島県出水市を震源とする地震が発生した場合を想定した訓練を行いました。本訓練には、佐賀県支部職員4名が参加しました。

- ・日 程：12月3日（日）～4日（月）
- ・場 所：鹿児島県支部（鹿児島市）

【運営委員会】

- 3月16日 第1回運営委員会（Web会議）
- 8月25日 第2回運営委員会（鹿児島県支部）
- 10月24日 打ち合わせ会議（鹿児島県支部）



エ 災害看護論研修

唐津赤十字病院看護師20名、運営スタッフ（日本赤十字社佐賀県支部）2名、の総勢22名が参加しました。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

- ・日 程：12月8日（土）
- ・場 所：唐津赤十字病院

○ 研修内容

- ① 赤十字の災害救護活動
- ② 出動命令が出されたら
- ③ 基礎行動
- ④ 救護倉庫と資器材の確認
- ⑤ エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑥ 救護活動時に使用する各種様式



- ⑦ 救護活動時に使用する通信手段
- ⑧ 災害救護シミュレーション

オ 救護班主事研修会（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

日赤救護班要員の主事の業務は、平時の通常業務と異なるにも関わらず複雑で多岐に渡るため、災害時、被災地でスムーズかつ効果的に活動を行うには、事前の研修や訓練が欠かせません。その主事に特化した研修会を令和2年度から開催し、今回4回目を開催しました。日本赤十字社佐賀県支部1名、唐津赤十字病院6名、佐賀県赤十字血液センター2名の主事9名並びに訓練スタッフ等13名の総勢22名が参加し、感染防止対策を取りながら実施しました。

- ・ 主な内容：主事に必要な知識、技術、態度を習得すること
- ・ 対 象：救護班要員の主事職に任命される職員
- ・ 日 程：3月10日（日）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

○訓練内容

- ① 救護班要員としての主事とは
- ② 日赤の救護活動の実際と変遷
- ③ 基礎行動
- ④ 救護活動時に使用する通信手段
- ⑤ EMISの取り扱い
- ⑥ 出動準備～活動～撤収（机上シミュレーション）
- ⑦ 医師等から見た主事について



EMIS 実習をする救護班主事

カ 第6ブロック通信訓練

災害時、固定電話や携帯電話など通常の通信網が使用不能となった場合を想定し、九州各県支部の緊急連絡系統整備・確立することを目的に、毎月第3水曜日に実施しました。

キ こころのケア研修（唐津赤十字病院 1月26日（金））

唐津赤十字病院医師1名、看護師18名、指導者2名の総勢21名が参加し、救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ① 日本赤十字社のこころのケア
- ② 災害時のストレスとストレス反応
- ③ 被害者へのこころのケア
- ④ 救護員へのこころのケア
- ⑤ こころのケアの実際（グループワーク/ロールプレイ）

ク こころのケア指導者養成研修会（本社 10月11日（水）～12日（木））

救護活動の重要な柱の一つである災害時におけるこころのケア活動を実践する救護員の指導者を養成する研修会に唐津赤十字病院公認心理師1名が参加しました。

- ケ 日赤災害医療コーディネート研修会（本社 7月8日（土）～9日（日））
（本社 9月23日（土）～24日（日））

日赤災害医療コーディネートチームの活動能力向上を目的にチーム要員を養成する研修に唐津赤十字病院医師1名がスタッフとして、日本赤十字社佐賀県支部1名が受講者として参加しました。

- コ 日本災害医学会総会・学術集会（京都 2月22日（木）～24日（土））

日本赤十字社佐賀県支部の救護員に対する研修体系について赤十字内外の災害救護関係者と議論するために演題発表を行いました。

演題：日本赤十字社佐賀県支部が実施する常備救護班要員研修会の変遷と展望
～よりよい研修を目指して～

演者：唐津赤十字病院 医療社会事業部長 酒井正
唐津赤十字病院 救急科医師 日下あかり
日本赤十字社佐賀県支部 事業推進課災害救護係長 上瀧達也

（４）防災関係機関との連携の強化

- ア 佐賀県原子力防災訓練（10月14日（土））

唐津赤十字病院より20名が参加し、県や長崎大学と協働して、傷病者受け入れ・処置訓練を行いました。佐賀県支部では、佐賀県原子力災害対策本部との情報伝達訓練を行いました。

- イ 佐賀市総合防災訓練（11月12日（日））

佐賀県支部1名、赤十字ボランティア4名が参加、三瀬グラウンドにおいて、市、消防、その他関係機関と協働して応急救護所設置訓練、傷病者受け入れ訓練を行いました。



- ウ 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月15日（日））

佐賀県支部2名、佐賀県赤十字血液センター1名に加え、唐津赤十字病院より救護班1個班（6名）が参加し、DMA Tや消防等の関係機関と協働して、「通報訓練」、「トリアージ地区・救護所等設置訓練」「トリアージ・救護訓練」を実施しました。



- エ 九州地方非常通信訓練（8月7日（月））

災害時に固定電話や携帯電話が輻輳又は使用不可となった場合でも、防災相互波無線通信を用いて佐賀県や他県支部と相互連絡ができるよう通信訓練を行いました。

（５）赤十字防災ボランティアとの協働

- ア 防災ボランティア緊急連絡訓練及び「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練（佐賀県支部 基礎編：9月2日（土））
（佐賀県支部 実践編：3月16日（土））

災害時、防災ボランティアが迅速かつ効果的に救護活動を実施するため、支部からの支援要請を緊急連絡網で伝達・回答し、支部に参集後は、防災ボランティアセンターの立ち上げと、防災ボランティアリーダーを中心に運営できることを目的に実施しました。

【基礎編】

参加人数：防災ボランティア 25 名（うち防災ボランティアリーダー 3 名）

支部職員 4 名

- 内 容：① 防災ボランティア緊急連絡訓練
 ② 災害時の赤十字ボランティアについて
 ③ 防災ボランティアセンターの運営等について
 ④ 「日赤さが防災ボランティアセンター」のレイアウト説明
 ⑤ 救護資器材の現地説明



【実践編】

参加人数：防災ボランティア 36 名

（うち防災ボランティアリーダー 1 名）

支部職員 4 名

- 内 容：① 令和 6 年能登半島地震における赤十字の活動報告
 ② 防災セミナー「家具安全ゲーム (KAG)」



(6) 救護装備及び救援物資の整備

令和 5 年度末における救護活動に必要な資器材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機(器)材の保有状況

(令和 6 年 3 月末現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
救急車	2 台(1)	発電機	5 基(1)
災害救援車	7 台(2)	投光器	6 台
災害連絡車	2 台	防雨ヘッドランプ	40 個(4)
医療セット	2 組(2)	防護用ゴーグル	40 個(10)
担架	20 台(5)	防護用ヘルメット	35 個(4)
簡易ベッド	26 台(6)	折り畳み式机	6 台
災害救護用パソコン	1 台	無線基地局(150MHZ)	3 局
災害救護用通信機器(Wifi)	1 機	車載無線機(//)	27 台(16)
パイプテント	27 張(20)	携帯無線機(//)	14 台
ドラッシュテント	1 セット	無線基地局(400MHZ)	1 局
エアテント大	3 セット(2)	車載無線機(//)	7 台
エアテント小	2 セット(1)	携帯無線機(//)	15 台
イージーアップ・テント	22 張(20)	車載衛星電話	2 機
NBC 災害除染セット	1 セット	可搬型衛星電話	1 機(1)

デジタル個人線量計	42 個	折り畳み舟艇	1 隻
空間線量率測定用サーベイメータ	1 台	折り畳みリヤカー	2 台
防護服セット	42 セット	非常用炊き出し釜	22 台
災害用トイレ（ラップポン）	12 据	DMAT 資器材	1 セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2 台	浄水器	1 台
蓄電池（大）	2 台	蓄電池（小）	3 台

※（ ）カッコ内は管内赤十字施設及び地区分区の備蓄数（内数）

イ 救援物資の備蓄状況（地区分区備蓄分含む）

（令和6年3月末現在）

品 目	年度当初	受 入 (整備等含む)	払 出 (配布等含む)	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,363	0	99	1,264
タオルケットセット (組)	230	0	2	228
バスタオル (枚)	705	0	113	592
緊急セット (個)	476	0	60	416
安眠セット (組)	420	0	0	420
ブルーシート (枚)	110	0	0	110
非常食 (食)	578	0	0	578

(7) 災害被災者に対する緊急物資等の配布

令和5年度は、火災等により罹災された49世帯に対し、次のとおり見舞品及び見舞金を贈呈しました。

世帯数	毛 布	バスタオル	緊急セット	見舞金等(円)
49	74	74	46	290,000



毛布・安眠セット



緊急セット

(8) 赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者の育成

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業(セミナー)の指導・運営を行う指導者を養成する防災教育事業指導者養成研修(宮崎 10月31日~11月1日)に、支部職員2名(うち1名はスタッフ)が参加しました。

防災教育事業指導者在籍状況

(令和6年3月末現在)

名 称	所 属	人 数
佐賀県支部防災教育事業指導者	支部職員	3名
	奉仕団員	8名
佐賀県支部防災教育事業主任指導者	支部職員	1名

イ 赤十字防災セミナーの開催

近年、全国で大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるため、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催し、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、自分のいのちは自分で守る「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。



防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
17回	906人	<ul style="list-style-type: none"> ○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当 ○災害食作り … ハイゼックス(炊飯袋)を使った炊き出し(飲食は伴わず)

(9) 臨時救護

公共性が高く多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ救護班(員)を派遣しています。

救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数 (医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
10回	16日	26名	2名

(10) 赤十字看護師(救護員)の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市)で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。令和5年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分

(令和6年3月末現在)

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	1名	0名	1名	0名

(11) 国内義援金

これまでに国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、令和5年度に県民の皆様から寄せられた義援金は、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に全額届けられました。

内 訳	件 数	金 額 (円)
令和5年5月能登地方地震災害義援金	52	284,647
令和5年台風第2号大雨災害義援金	15	173,434
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	2	6,638
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	188	12,213,926
令和5年台風第6号災害義援金	1	9,663
令和5年台風第13号災害義援金	1	436
令和6年能登半島地震災害義援金	869	101,029,352
合 計	1,128	113,718,096

2 国際救援活動

世界各地で紛争、災害、病気といった人道危機に苦しむ人々への支援活動を行いました。

特に、ウクライナにおける人道危機やイスラエル・ガザ人道危機、地震や洪水など、避難者や被災者に対する支援は急務です。

日本赤十字社の国際活動は、赤十字国際委員会（ICRC）及び国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、世界 191 の国や地域に広がるネットワークを通じて、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

- 独立国 195 カ国（日本政府承認）
- 国連加盟国 196 カ国
- 国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 191 カ国
（赤十字 156 カ国、赤新月社 34 カ国、ダビデの赤盾社 1 カ国）



がれきの中の被災者を救出©SARC
(トルコ・シリア)



厳しい状況に苦しむ女性を元気づける
ウクライナ赤十字社ボランティア
(C) ウクライナ赤十字社

(1) 日本赤十字社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の避難者や被災者を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い活動資金・寄付金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



子どもたちを対象としたところのケア
(C) パレスチナ赤新月社



被災地で捜索・救助活動を行うスタッフ
(C) パキスタン赤新月社

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
バングラデシュ南部 避難民救援	平成 29 年～	医療チーム派遣等の緊急救援から母子保健を含む診療サービスや避難民ボランティアによる地域活動、こころのケア等中長期支援
中東人道危機救援	平成 23 年～	日本人医療者による医療技術支援や診療所の衛生環境整備等、シリア難民・パレスチナ難民や受け入れコミュニティへの支援
ウクライナ人道危機 救援	令和 4 年～	ウクライナ及び周辺国において資金援助、薬剤師、こころのケア要員、理学療法士等の派遣、救急車及び医療資機材の供与等
トルコ・シリア地震 救援	令和 5 年 2 月～	食事の提供、巡回診療や水・現金の給付、病院への搬送支援、日赤からシリア連盟保健医療コーディネータの派遣等
イスラエル・ガザ 人道危機救援	平成 5 年 10 月～	イスラエル、ガザ地区内での救急搬送や治療、物資配付、献血、避難民へのこころのケア、また周辺国での避難民流入への準備

イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等 レジリエンス強化事業	令和元年～	村落地域でのモバイルラジオによる生活改善の啓発活動、地域住民による共同貯蓄、家畜の配布、家庭菜園及び栄養指導、奨学金、給水設備やトイレの整備
アフガニスタン気候 変動対策事業	令和 2 年～	複合危機に直面する地域での植樹による緑化及び収入源確保、職業訓練や小規模融資、自主防災組織・学校防災組織への災害対応キット配布
インドネシア防災強化 事業	令和 2 年～	災害リスクの高い地域での早期警報訓練、防災啓発のための家庭訪問、教員向け防災教育指導要領策定・配布、教員向け防災授業指導研修及び受講者による生徒への防災授業
ネパールコミュニティ 防災強化事業	令和 3 年～	災害リスクの高い地域での自主防災組織の結成、地域住民への防災知識の普及、地域災害リスクマップの作成、簡易堤防の整備
大洋州気候変動対策 事業	令和 5 年～	若年層による気候変動への取り組み、各国赤十字社の環境負荷の軽減策、気象災害早期対応に向けた関係機関との連携及び体制構築
国際赤十字・赤新月社 連盟を通じた支援	毎年実施	連盟を通じた保健・衛生、気候変動、災害対応、ユース等、幅広い活動への支援、各国赤十字・赤新月社の組織強化、および連盟が実施する地域会議・研修への支援



リヴィウ州のリハビリテーションセンターで支援調査にあたる日本赤十字社の理学療法士
(C) 日本赤十字社 (ウクライナ)



バングラデシュ南部避難民支援心理社会的支援の活動に参加する避難民の女の子たちと会話する日赤要員
(C) 日本赤十字社



トルコ・シリア地震救援日赤医療調査団とカフラマンマラシュ村の現地の子ども
(C) 日本赤十字社

(2) 佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和5年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額 (円)
中東人道危機救援金	7	10,000
バングラデシュ南部避難民救援金	9	20,569
アフガニスタン人道危機救援金	7	20,024
ウクライナ人道危機救援金	57	1,216,289
2023年トルコ・シリア地震救援金	81	1,579,283
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	3	7,301
2023年モロッコ地震救援銀	1	4,580
2023年アフガニスタン地震救援銀	1	382
イスラエル・ガザ人道危機救援金	9	33,341
「NHK海外たすけあい」寄付金	101	1,069,621
無指定海外救援金	0	0
計	276	3,961,390

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第41回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では12月9日(土)、12月16日(土)、12月23日(土)の3日間に県内延べ9カ所において赤十字奉仕団員、有功会員、青少年赤十字メンバー、企業の社員など約250名の参加を得て街頭募金活動を実施しました。

令和5年度の「海外たすけあい」では、本県で、4,983,788円、全国では約8億6千万円の寄付金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。

「海外たすけあい」街頭募金活動の実績

会 場		実績額
佐賀市	J R 佐賀駅	70,968 円
	ゆめタウン佐賀	235,941 円
	イオン佐賀大和店	52,874 円
唐津市	イオン唐津店	78,048 円
鳥栖市	フレスポ鳥栖	98,316 円
	マックスバリュ鳥栖村田店	38,717 円
みやき町	ミスターマックス北茂安店	22,322 円
合 計		597,186 円



ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（ICRC）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々がICRCを通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

3 救急法等の講習普及

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地でいのちを守り健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

令和5年度も、新型コロナウイルス感染症などに対する感染対策を図り、講習資機材の貸し出しや「動画で見る一次救命処置」をはじめ動画教材などICTの活用も推進しました。

AEDの講習については、ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショックAED）の普及に伴い、従来のショックボタンを有するAEDとの相違点、使用上の注意点など最新情報を講習内容に取り入れています。

また、地域包括ケア事業への取り組みとして、地域の『通いの場』の運営側や支援者への講習を実施しました。

(1) 救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき、日常生活における事故防止や応急手当の基本、胸骨圧迫やAEDの使い方、災害時の心得などの知識と技術を習得できる講習会を、児童生徒から企業、地域住民まで幅広い対象に向けて実施しました。

また、救急法普及体制の強化を図るため9年ぶりとなる指導員養成講習を開催し、新たに10名の指導員が誕生しました。

なお、救急法基礎講習の学科Webトライアルを実施し、正式導入に向けた検証を行いました。（受講者数 3,126人）



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習 (学科Webトライアル)	17回 (うち2回)	465人	463人	463人
救急員養成講習	11回	250人	250人	250人
短期講習	55回	2,401人		
指導員養成講習	1回	10人	10人	10人

(2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。特に着衣泳は小学生を対象に実施しました。（受講者数 1,031人）



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員Ⅰ養成講習	1回	10人	10人	10人
救助員Ⅱ養成講習	1回	11人	11人	11人
短期講習	17回(うち着衣泳15回)	1,010人		

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合う心を育む講習を開催し、主に地域で高齢者支援を行うボランティアが参加されました。

(受講者数 260人)



健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	6人	6人	6人
短期講習	8回	254人		

(4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当ての方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。

(受講者数 544人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	13人	13人	13人
短期講習	24回	531人		

(5) 講習資機材の貸し出し

心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 20回

(6) 指導員研修会

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催しています。

指導員研修会

期日	研修名	会場	参加者
4月21日・22日	救急法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	20人 26人
5月20日	水上安全法指導員伝達研修会	SAGA アクア	11人

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	53人	5人	3人	3人	64人
水上安全法指導員Ⅱ	23人	1人	1人	4人	29人
健康生活支援講習指導員	3人	1人	3人	1人	8人
幼児安全法指導員	17人	1人	1人	0人	19人

(7) 講師研修会

最新の講習教本および指導要領、今後の講習普及方針について理解を深め、講習の普及と指導員育成計画に役立てることを目的として開催されました。

講師在籍状況

講習種別	講師数
救急法	2人
水上安全法	1人
健康生活支援講習	2人
幼児安全法	2人

講師研修会参加状況

研修会名・会議名	開催形式	回数
救急法講師研修会	参集なし。能登半島地震災害対応のため本社より資料送付。	
水上安全法講師研修会	参集なし。能登半島地震災害対応のため本社より資料送付。	
健康生活支援講習講師研修会	本社参集	1回
幼児安全法講師研究会	令和5年7月九州北部豪雨災害対応のため参加見送り。	
幼児安全法講師研修会	本社参集	1回

(8) 地域包括ケア事業への参画

医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、地域で支える「地域包括ケア事業」。

全市町へのアンケート調査や訪問聞き取りに基づき、市町が行う『通いの場』に携わる人材育成のための研修会で『博愛のこころを未来へ～地域包括ケア参画事業』と題し赤十字講習を実施しました。また、今後の赤十字ボランティアの参画を見据え、佐賀市生活・介護支援サポーター養成講座では、ボランティア指導員も参加しました。



地域包括ケア参画事業実施状況

期 日	依頼元（講習種別）	会 場	参加者
10月18日	みやき町分区 （救急法）	みやき町三根庁舎	17人
3月1日	嬉野市福祉課 （健康生活支援講習・防災セミナー）	嬉野市吉田地区 「ふれあい茶の間」	13人
3月6日	佐賀市高齢福祉課 （健康生活支援講習・防災セミナー）	佐賀市役所大財別館	6人

地域包括ケアにかかる本社主催会議参加状況

会議名	開催形式	回数
地域包括ケア担当者会議	Web 開催	1回
地域包括ケア担当者会議	参集 （日本赤十字社 幹部看護師研修センター）	1回

4 赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、人道・博愛の赤十字精神のもとに赤十字の使命とする人道的諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織であり、災害救護支援、青少年赤十字活動、各種講習会の指導など様々な分野で活動を展開しました。

平成29年6月に設置された「佐賀県奉仕団委員長連絡会議」は、令和3年4月より「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」と名称を改め、奉仕団間の連携強化を図り、より主体的・積極的な活動の推進に努めています。

令和5年度は「～佐野常民生誕200年記念～令和5年度九州八県赤十字大会」やNHK海外たすけあいキャンペーン街頭募金への参加などの支部事業の支援をはじめ、コロナ禍で実施できていなかった各奉仕団の活動が再開しました。

(1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況

(令和6年3月31日現在)

団名	団数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	22 団	2,362 名	山口 七重

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり20円が拠出されています。

令和5年度は下記のとおり、一品拠出金より日赤佐賀県支部に寄付されました。

- ・NHK海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・30,000円



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー①
(地域赤十字奉仕団の山口委員長による
NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈)



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー②
(地域赤十字奉仕団の山口委員長による
NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈)

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「JRC 活動支援」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況

(令和6年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	24名	執行 亜由美



救急法に関する勉強会



「LGBTQ」に関する勉強会



青少年赤十字高校メンバー協議会の定例会サポート

(3) 特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

(令和6年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	28名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	23名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	56名	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	24名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	21名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	18名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	8名	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	24名	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	13名	田中 正照

(4) 活動状況

ア ボランティアの育成

(ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参加者
5月14日	青年奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	9名
5月20日	水上安全奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	8名
6月20日	賛助奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	7名

② 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部委員会との共催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成26年度より研修交流会を開催しています。

また、平成29年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員による研修交流会の企画・運営を行っています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、4年ぶりに各奉仕団から実行委員を募り、2回の会議を実施しましたが、令和6年1月に発生した能登半島地震の災害対応を優先するため中止となりました。

日 付	会議・研修名	会場	活動内容	参加人数
9月2日	第1回実行委員会	日本赤十字社 佐賀県支部	内容検討、役割分担	12名
12月10日	第2回実行委員会	日本赤十字社 佐賀県支部	青少年赤十字の フィールドワーク体 験	16名
1月13日	第8回佐賀県赤十字 奉仕団研修交流会	日本赤十字社 佐賀県支部	能登半島地震災害対応のため中止	



第1回実行委員会



第2回実行委員会

③ 奉仕団機関誌「凌風丸」の発行

令和2年度及び令和3年度の奉仕団研修交流会の中止により、支部委員会の交流活動の一環として標記機関誌を作成、発行しました。

令和5年度は、九州八県赤十字大会の佐賀県での開催を記念し、特別号として支部指導講師が作成し、各奉仕団に配布しました。



九州八県赤十字大会の取材を行う
支部指導講師

奉仕団機関誌「凌風丸」特別号では、九州八県赤十字大会での運営ボランティアの活動を紹介
(令和5年12月発行)

④ 赤十字防災ボランティア研修会

期 日	内 容	会 場	参加者
9月2日	日赤さが防災ボランティアセンター 設置運営訓練 (基礎編)	日本赤十字社 佐賀県支部	23名
3月16日	令和6年能登半島地震災害救護活動報告会 防災セミナー「KAG」体験※	日本赤十字社 佐賀県支部	30名

※3月16日は防災ボランティアセンター設置運営訓練(応用編)の実施を予定しておりましたが、令和6年能登半島地震の発災により内容を変更しました。

⑤ 支部指導講師打ち合わせ

期 日	内 容	会 場	参加者
4月13日	基礎研修会打ち合わせ①	日本赤十字社佐賀県支部	9名
8月17日	奉仕団研修交流会打合せ	日本赤十字社佐賀県支部	8名

(イ) 赤十字ボランティア・リーダー研修会

期 日	会 場	参加者
8月26日 ～28日	国立リハビリテーションセンター 青少年総合センター	石田 正紹(賛助奉仕団) 野中 優作(青年赤十字奉仕団)
6月3日	日本赤十字社本社	松崎 かめ代 (救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団) ※講師として事前準備会議参加
7月15日		
8月6日		
8月25日 ～28日	国立リハビリテーションセンター 青少年総合センター	松崎 かめ代 (救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団) ※講師として研修会参加

(ウ) 赤十字奉仕団等ボランティアにかかるプロジェクト型活動研修会

期 日	会 場	参加者
8月5日	Web 開催	支部職員 4名
10月23日	Web 開催	支部職員 3名
3月18日	Web 開催	支部職員 2名

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日 付	活 動	参加奉仕団	回数
12月1日 ～25日	海外たすけあい募金活動 (NHK 窓口受付業務)	青年、救急法、看護、 しゃちの会	16回
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	105回
随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、水上安全、 幼児安全法、特殊輸送	5回※
随時	臨時救護	看護	5件
随時	支部内作業（広報紙仕分け）	しゃちの会	月1回

※支部職員が実施した回数を除いています



NHK 佐賀放送局特設窓口



九州八県赤十字大会 受付

② 地域赤十字奉仕団

日 付	主催者	会 場	活動内容	参加者
6月13日	佐賀県地域婦人 連絡協議会	婦人会館	幼稚園・保育園向け防災教材 「ぼうさいまちさがし きけんはっけん！」研修会	17名
12月11日	佐賀県地域婦人 連絡協議会	婦人会館	防災学習会	54名
2月18日	佐賀県地域婦人 連絡協議会	熊本県 婦人会館	熊本県地域赤十字 奉仕団との交流	—

③ 青年赤十字奉仕団

日付	主催者	会場	活動内容	受講者
5月14日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	総会・基礎研修会	12名
7月17日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	VS説明会、事前準備	4名
7月29日 ～8月6日	日本赤十字社 佐賀県支部	支部 北山少年自然の家	青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニングセンター (小・中・高)	8名
9月23日	日本赤十字社 佐賀県支部	日本赤十字社 佐賀県支部	VS反省会	4名
10月28日	青年奉仕団	勤労者体育館	スポーツ交流会	7名
11月3日	佐賀市	嘉瀬川	佐賀インターナショナル・バルーン フェスティバル清掃活動	8名
12月9日、 16日、23日	日本赤十字社 佐賀県支部	佐賀県内各地	NHK 海外たすけあい 街頭募金	2名
12月24日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	救急法基礎講習	5名
1月21日	青年奉仕団	JR 佐賀駅	令和6年能登半島 地震災害義援金街頭募金	5名
2月25日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	LGBTQ 勉強会	5名
随時	青少年赤十字高校 メンバー協議会	日本赤十字社 佐賀県支部	定例会サポート	11名

④ 特殊奉仕団

日付	主催者	会場	活動内容
随時	ほっと	県内3施設	介護施設等におけるケア
随時	特殊輸送	日本赤十字社 佐賀県支部	車両整備、タイヤ交換

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会

日付	会場	内容
3月18日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会・総会・研修会
9月2日	-	発災時通報連絡訓練
11月15日	SAGA アリーナ	九州八県赤十字大会 打合せ・リハーサル
11月16日	SAGA アリーナ	九州八県赤十字大会
12月9日、 16日、23日	佐賀県内各地会場	NHK 海外たすけあい街頭募金

日付	会場	内容
1月21日	日本赤十字社佐賀県支部	令和6年能登半島地震災害救護活動報告会
1月21日	JR佐賀駅	令和6年能登半島地震災害義援金街頭募金活動
3月16日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会・総会・研修会

(イ) ブロック主催行事

① 第6ブロック青年赤十字奉仕団協議会

期日	開催形態	参加者
10月7日	Web会議	執行 亜由美 委員長 上野 聖哉 副委員長

② 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

※令和6年能登半島地震災害対応のため中止

(ウ) 本社主催行事等

① 赤十字奉仕団中央委員会

期日	会場	参加者
6月1日 ～2日	日本赤十字社本社	瀬戸 弘美 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会 委員長 佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成24年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。



表彰状授与（救急法奉仕団）

令和5年度 奉仕者功労 日本赤十字社表彰者数

奉仕団名	金色 有功章 (20年以上)	銀色 有功章 (15年以上)	支部長 感謝状 (10年以上)	支部長 感謝状 (5年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	0	10	0	0	10
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	2	2
佐賀県赤十字救急法奉仕団	0	19	4	0	23
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	0	0	4	4
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	2	0	2	0	4
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	0	1	1
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	0	0	0	1	1
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	4	0	0	0	4
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	6	29	6	8	49

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 佐藤 洋 (佐賀県赤十字水上安全奉仕団 委員長)



佐賀県赤十字水上安全奉仕団
佐藤委員長

5 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）



出前講座「世界の国のことを知ろう」
(国際理解・親善)

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。

加盟校の児童生徒を対象にした青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター、教職員を対象とした青少年赤十字指導者育成研修会、青少年赤十字指導者協議会の役員を対象とした理事研究会、加盟校長を対象にした青少年赤十字加盟校長等研修会など、活動内容や日程を十分に検討し、感染対策を行いながら開催しました。



高校トレセン：「リーダーシップとは」



JRC 登録式：博愛の里こども園

(1) 青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

(令和6年3月31日現在)

校 種	加盟校数(校・園)	メンバー数	指導者数
幼稚園・保育園	13	1,244	341
小 学 校	123	28,212	2,193
中 学 校	80	20,964	1,819
義務教育学校	6	2,267	118
高 等 学 校	33	10,133	953
特別支援学校	4	412	153
専修学校	2	25	4
合 計	261	63,257	5,581

※小・中・高校のJRC加盟校は、全体の約83%

イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和6年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 本庄幼稚園、鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、高岸幼稚園、 にじのはねこども園、 新栄、思斉、中川副、 大詫間、南川副、西川副、 東与賀、久保泉、佐大附属、 富士、若楠、諸富北、 北山東部、本庄、巨勢、 日新、諸富南、三瀬、嘉瀬、 高木瀬、西与賀、松梅、 勸興、赤松、鍋島、 開成	32 佐大附属、城南、 昭栄、城東、金泉、 諸富、富士、三瀬、 大和、川副、城北、 東与賀、佐賀清和、 鍋島、松梅、思斉、 弘学館、龍谷、 成穎	19 佐賀東、 佐賀工業、龍谷、 北陵、佐賀北、 佐賀女子、 佐賀学園、 佐賀商業、 高志館、 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、 盲学校佐賀大和特支、 星生学園 九州国際高等学園	17 68
唐 津 市	すみれ幼稚園、 大良、平原、成和、湊、馬渡、 呼子、田野、外町、長松、 久里、切木、大志、巻木、 鬼塚、佐志、玉島、竹木場、 北波多、浜崎、西唐津、 東唐津、相知、納所、入野、 小川、七山、	27 第一、鏡、鬼塚、佐志、 相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川、 高峰、海青、第五、 巖木、浜玉、湊、 唐津東	17 唐津東、唐津南、 唐津西、巖木 唐津商業 唐津特支分校	6 50
鳥 栖 市	虹の子保育園、レインボー保育園、 あいりす保育園、神辺幼稚園、 鳥栖ルビニ幼稚園、 基里、田代、若葉、弥生が丘、 麓、鳥栖北、旭、鳥栖	13 基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠	5 鳥栖、鳥栖商	2 20
多 久 市	ひしのみこども園	1 西溪校、中央校、 東部校(義務教育学校)	3 多久	1 5
伊 万 里 市	黒川、松浦、波多津、立花、 山代東、牧島、山代西、二里、 伊万里、大川内、大川、 大坪	12 青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、伊万里、 南波多郷学館 (義務教育学校)	7 敬徳	1 20
武 雄 市	北方、西川登、朝日、若木、 山内東、 武内 、 武雄	7 山内、武雄、北方、 武雄青陵 、 川登 、 武雄北	6 武雄	1 14
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、能古見、 明倫、北鹿島、 古枝	7 東部、西部	2 鹿島	1 10
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡、晴田、 砥川、牛津、三日月、三里	8 小城、牛津、芦刈、 三日月	4 牛津	1 13
嬉 野 市	吉田、大野原、大草野、轟、 久間	5 吉田、大野原、塩田	3 嬉野	1 9
神 埼 市	神埼、脊振、西郷、仁比山、 千代田西部、千代田中部、 千代田東部	7 神埼、千代田、脊振	3 神埼、神埼清明	2 12
三 養 基 郡	北茂安、三根西、三根東、 中原、上峰、若基、基山	7 三根、上峰、北茂安、 中原、基山	5 三養基、 中原特別支援	2 14

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	有田中部、大山 2	有田、西有田 2	0	4
杵 島 郡	六角、白石、有明東、江北 4	白石、福富、江北、 有明、大町ひじり学園 5 (義務教育学校)	白石、佐賀農業 2	11
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 13 小学校 123	義務教育学校 6 中学校 80	特別支援 4 高校 35	261

※ … 令和5年度 新規加盟校(小学校：5校)(中学校：3校)(高校：1校)
(専修学校：1校)

ウ 青少年赤十字加盟登録式

青少年赤十字メンバーとしての意識を高めるための加盟登録式は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分行ったうえで、こども園1園、小学校1校、中学校5校、小・中一貫1校、高校1校の9件の依頼に対応し、講師派遣を行いました。

(2) 活動状況

ア 指導者対象

(ア) 全国青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会

- ・開 催 日 5月26日(金)～28日(日)
- ・場 所 国立オリンピック記念センター
- ・参 加 者 山口 拓也(巨勢小学校教諭/指導者協議会幹事)

(イ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会(佐賀県主催)

学校教育と青少年赤十字との関連について理解を深め、青少年赤十字活動の中核となる指導者の育成を目的として、毎年九州各県が主催して開催しています。今回は佐賀県内の指導者を育成するための「佐賀県青少年赤十字指導者育成研修」と併せて開催し、学校教育の中に活かす青少年赤十字やフィールドワークのプログラムに、県内外からの参加者が取り組みました。

- ・開 催 日 8月20日(日)21日(月)
- ・場 所 四季彩ホテル「千代田館」
- ・参 加 者 県内参加者 12名(小：6名 中：4名 高：2名)
※中堅研対象者 6名
県外参加者 9名(小：5名 中：3名 高：1名)

(ウ) 全国指導者協議会総会(本社)

- ・開 催 日 6月30日(金)
- ・場 所 日赤本社
- ・参 加 者 宮原 孝子(開成小学校長/指導者協議会会長)

(エ) 九州ブロック青少年赤十字指導者協議会会長並びに支部担当者会議（佐賀県）Web 開催

- ・開催日 2月27日（火）
- ・場所 日赤佐賀県支部
- ・参加者 宮原 孝子（開成小学校長／指導者協議会会長）他 支部職2名

(オ) 佐賀県指導者協議会役員会（第1回）

- ・開催日 5月11日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 33名

(カ) 佐賀県指導者協議会総会並びに研修会

- ・開催日 5月11日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 139名

(キ) 佐賀県指導者協議会役員会（第2回）

- ・開催日 2月20日（火）
- ・場所 日赤佐賀県支部
- ・参加者数 31名

(ク) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

- ※九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（佐賀県主催）を兼ねる
- ※（イ）を参照

(ケ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第6回理事研究会 web 開催

- ・開催日 6月15日（木）
- ・場所 日赤佐賀県支部より配信
- ・参加者数 11名

(コ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

青少年赤十字指導者協議会の主体化及び組織強化のため研修内容の充実を図っています。令和5年度は、テーマを～「気づき・考え・実行する」をモットーとして生きる！～と題し、「博愛のこころを未来へ」JRC交流フォーラムを開催しました。

- ・開催日 11月30日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 179名



研修Ⅰ「青少年赤十字と学校教育」



研修Ⅱ「博愛のこころを未来へ」JRC交流フォーラム

テーマ ～「気づき・考え・実行する」をモットーとして生きる！～



イ メンバー対象

(ア) 青少年赤十字スタディー・センター（本社主催）

- ・開催日 3月22日（火）～3月26日（土）4泊5日
- ・場所 山梨県東照館
- ・参加者 田中丸みちる（県立高志館高校）
高尾 美月（佐賀女子高等学校）
- ・指導スタッフ 荒巻 亘（佐賀女子高等学校教諭／指導者協議会幹事）

(イ) 青少年赤十字国際交流事業「国際交流集会」

- ・開催日 11月23日（木）～26日（日）
- ・場所 国立オリンピック記念センター
- ・参加者 高橋こころ（県立神埼高等学校）
- ・指導スタッフ 松尾 一志（県立神埼高等学校教諭／指導者協議会幹事）

(ウ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの実施

<小学校の部>

- ・開催日 7月31日（月）～8月1日（火）1泊2日
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 41名

<中学校の部>

- ・開催日 7月27日（木）リモートトレセン
8月2日（水）～8月3日（木）
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 42名

<高等学校の部>

- ・開催日 7月29日（土）日帰り（1日目）
8月6日（日）日帰り（2日目）
- ・場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館（1日目）
日赤佐賀県支部（2日目）
- ・参加者数 17名

(エ) 博愛フェスタ 2023 での博愛発表会

- ・開催日 12月10日（日）
- ・場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
- ・発表校 大詫間小学校、三瀬中学校、鹿島高等学校

(オ) 国内交流（千葉県JRCと中川副小学校との交流会）

- ・開催日 2月16日（金）
- ・場所 中川副小学校
- ・参加者 中川副小学校5年生・千葉県JRCメンバー8名
- ・交流内容 各県の特徴紹介、それぞれのJRC活動の紹介

(カ) 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 4名

氏名	学校名	氏名	学校名
石松 隼	神崎市立脊振中学校	一番ヶ瀬理己	神崎市立脊振中学校
諸田 禎与	県立多久高等学校	高橋こころ	県立神埼高等学校

<優良グループ表彰> 2団体

グループ名	グループ名
脊振中学校生徒会	北方中学校生徒会

(キ) JRC 高校メンバー協議会活動 (月定例会の活動)

高校メンバー協議会は、月1回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を自分たちで企画運営しています。



5月：「イラスト伝言ゲーム」



5月：「風船バレー」



6月：「国際理解・親善」



6月：「国際理解・親善」



9月：「JRC 活動紹介」



9月：「役員改選」



1月：「国際交流」



1月：「国際交流」



1月：「国際交流」



3月：福祉について



3月：視覚障害について



3月：国際交流事業の報告

ウ その他の活動

(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈（10年・5年）

11月30日にメートプラザ佐賀で開催しました青少年赤十字加盟校長等研修会において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

- ① 10年以上 継続校（園）31校
- ② 5年～9年 継続校（園）6校

(イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した「イトスギ」の贈呈を行いました。「イトスギ」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。



○ 「イトスギ」贈呈校

- ① 唐津市立東唐津小学校
- ② 鹿島市立能古見小学校
- ③ 伊万里市立伊万里小学校
- ④ 唐津市立巖木中学校
- ⑤ 鹿島市立東部中学校

(ウ) 青少年赤十字防災教育講話

① ためになる！青少年赤十字防災学習

（千代田中部小学校6年生）（久間小学校）（砥川小学校）（大草野小学校）
（新栄小学校）（川副中学校）（若楠小学校）（本庄幼稚園）（牧島小学校）
（鳥栖西中学校）（吉田中学校）（基里小学校）（西唐津中学校）（弥生が丘小学校）
（三根西小学校）（三根東小学校）（田代小学校）

② 災害時シミュレーション体験（御船が丘小学校5年PTA行事）

(エ) 青少年赤十字講話

- ① JRC講話（東脊振中学校登録式）（博愛の里こども園登録式）（中原中学校登録式）
（諸富北小学校登録式）（三瀬小学校・中学校登録式）（北茂安中学校）
（脊振中学校）（千代田中学校）

(オ) 県教育センター講座「学校防災講座」参加者27名・支部より指導者派遣

(カ) 学校安全総合支援事業

佐賀県教育委員会が文部科学省の委託を受けて、自然災害や交通事故に対しての安全教育を推進する取り組みに、推進委員および学校安全アドバイザーとして関わりました。

学校安全総合支援事業実施状況

会 場	実施日	内 容
基里中学校	6月19日(月)	実践委員会への参加
伊万里小学校	7月4日(火)	実践委員会への参加
基里中学校	12月19日(火)	実践委員会への参加
基里中学校	6月22日(木)	垂直避難訓練・防災講話
牧島小学校	10月25日(水)	1～3年生：防災学習
基里小学校	11月24日(金)	垂直避難訓練・防災講話

(キ) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集(支部扱い分)

(令和6年3月末現在)

内 訳	件 数	金 額(円)
令和5年5月能登地方地震災害義援金	2	10,429
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	8	198,164
令和6年能登半島地震災害義援金	51	2,907,736
2023年トルコ・シリア地震救援金	4	32,083
ウクライナ人道危機救援金	2	8,142
合 計	67	3,156,554

6 赤十字思想の普及と広報活動

(1) 令和5年全国赤十字大会

5月18日(木)、明治神宮会館(東京都渋谷区)において、令和5年全国赤十字大会が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席のもとに、開催されました。佐賀県からは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を絞り、5名が参加しました。

(2) ～佐野常民生誕200年記念～ 令和5年度九州八県赤十字大会

11月16日(木)、「～佐野常民生誕200年記念～ 令和5年度九州八県赤十字大会」を「SAGAアリーナ」(佐賀市)を会場として開催しました。九州八県赤十字大会の佐賀県での開催は11年ぶりです。大会には、受章(彰)者151名を含む赤十字関係者等約1,200名が参加しました。(名誉副総裁宮妃殿下はご欠席)

佐賀県関係受章(彰)者の内、金色有功章個人10人、同法人18社、銀色有功章個人11人、同法人14社、日本赤十字社社長感謝状個人8人、同法人16社が大会に出席されました。受章(彰)者を含む佐賀県参加者は、特別社員(会員)、地区・分区、青少年赤十字加盟校、有功会会員、赤十字奉仕団、赤十字職員など約860名でした。

今大会は、「博愛のこころを未来へ」をテーマとし、第1部の式典では表彰式のほか、九州八県支部が制作したオープニング動画の上映や、大会宣言を行う青少年赤十字高校生メンバーによる活動紹介など、参加者への日頃の感謝の気持ちを伝える内容で構成しました。

また、第2部のアトラクションでは、佐賀県制作の佐野常民紹介動画を上映し、キッズミュージカルTOSUによる「博愛」をテーマにしたオリジナル公演が披露され、大会全体を通して、「博愛のこころを未来へ」つなぐメッセージを伝えました。

なお、佐賀県が、佐野常民生誕200年を記念して、佐賀県赤十字血液センター前に銅像を建立されました。大会前日にお披露目式を行い、交差点の名称も「佐野常民像前」に変更されました。



表彰式の様子



キッズミュージカルTOSUメンバー



佐野常民銅像お披露目式



佐野常民紹介動画(佐賀県文化課制作)

佐賀県内の全受章(彰)者は以下のとおりです。(敬称略、順不同)

ア 日本赤十字社感謝状(金色有功章後の社資功労)

個人	古賀 常次郎 (佐賀市)	松本 義孝 (福岡県久留米市)
	福山 つや子 (佐賀市)	井口 克代 (福岡県福岡市)
	高取 義昭 (佐賀市)	船津 恵子 (神崎市)
	神近 文江 (嬉野市)	小柳 清久 (鳥栖市)
	千住 克幸 (佐賀市)	池上 美智子 (佐賀市)
	轟木 安枝 (佐賀市)	
法人	久光製薬株式会社 (鳥栖市)	松尾建設株式会社 (佐賀市)
	株式会社佐賀銀行 (佐賀市)	株式会社神近建設 (嬉野市)
	株式会社平野酸素商会 (唐津市)	田口電機工業株式会社 (基山町)
	佐賀富士ベンディング株式会社 (佐賀市)	
	株式会社中山ホールディングス (武雄市)	
	株式会社佐賀新聞社 (佐賀市)	株式会社九電工佐賀支店 (佐賀市)
	株式会社徳島建設 (吉野ヶ里町)	株式会社佐電工 (佐賀市)
	宗教法人大本山九州高野山瀧光徳寺 (基山町)	
	釘本建設株式会社 (唐津市)	株式会社田中守商店 (佐賀市)
	株式会社まいづる百貨店 (唐津市)	
	日本赤十字社看護師同方会佐賀県支部 (佐賀市)	

イ 金色有功章(社資功労・役職功労)

個人	功 社 労 資	夏秋 正倫 (神崎市)	竹下 敏昭 (佐賀市)
		古賀 武文 (鳥栖市)	花島 光喜 (鹿島市)
		福地 正博 (小城市)	嬉野 米治 (佐賀市)
		坂本 美奈子 (唐津市)	松本 順子 (武雄市)
	功 役 労 職	庄野 賢二 (佐賀市)	樗木 剛 (佐賀市)
		吉村 友美 (基山町)	
法人	株式会社成富建設 (嬉野市)	株式会社唐津公善社 (唐津市)	
	唐津市モーターボート競走事業 (唐津市)		
	医療法人樟風会早津江病院 (佐賀市)		
	岸川整形外科 (佐賀市)	株式会社大神 (佐賀市)	
	黒崎医院 (唐津市)		
	社会福祉法人まつみ福祉会 (武雄市)		
	佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 (佐賀市)		
	医療法人平川病院 (唐津市)		
	株式会社ミヤハラ物流 (吉野ヶ里町)		

法人	西日本プラント工業株式会社 (玄海町)	
	株式会社有明電設 (佐賀市)	
	株式会社トヨタレンタリース佐賀 (佐賀市)	
	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構 (佐賀市)	
	一般社団法人佐賀県歯科医師会 (佐賀市)	
	大石建設株式会社 (多久市)	下建設 (有田町)
	医療法人博洋会井手小児科医院 (伊万里市)	
	有限会社諸岡建設 (嬉野市)	
	医療法人財団友朋会嬉野温泉病院 (嬉野市)	
	永倉電気工業株式会社 (吉野ヶ里町)	

ウ 銀色有功章 (社資功労・役職功労)

個人	社資功労	雪竹 史郎 (佐賀市)	鳥羽 かおる (伊万里市)
		穴見 恵子 (佐賀市)	阿部 智介 (唐津市)
		尊田 孝弘 (みやき町)	古川 信子 (嬉野市)
		一ノ瀬 知早子 (佐賀市)	梶原 和子 (有田町)
		杉山 耕介 (東京都練馬区)	齋藤 久 (東京都小平市)
		堤 信夫 (東京都中央区)	村山 進一 (鳥栖市)
		瀧山 浩二 (東京都中央区)	秋山 勝彦 (千葉県印西市)
		南 秀尚 (千葉県船橋市)	鶴田 光利 (千葉県松戸市)
		尾崎 太郎 (福岡県太宰府市)	矢野 栄 (鳥栖市)
		舛屋 泰之 (鳥栖市)	平松 太郎 (東京都板橋区)
	磯部 雄一 (東京都品川区)	森脇 康次 (東京都江戸川区)	
	役職功労	峰 達郎 (唐津市)	中山 弘志 (武雄市)
		西 清登 (佐賀市)	土井 政子 (大町町)
		西原 好文 (江北町)	井手 康幸 (みやき町)
		藤満 晶子 (佐賀市)	諸石 康敬 (佐賀市)
		吉田 晃佑 (杵島郡)	溝口 万友美 (嬉野市)
	法人	株式会社佐賀タクシー (佐賀市)	
		明治安田生命保険相互会社佐賀支社 (佐賀市)	
		戸田建設株式会社 (福岡県福岡市)	
		パナソニックコネクト株式会社 (東京都中央区)	
医療法人九曜会こが内科こどもクリニック (佐賀市)			
モラージュ佐賀 (佐賀市)		新栄婦人会 (佐賀市)	

法人	一般社団法人佐賀市医師会 (佐賀市)	
	株式会社佐銀キャピタル&コンサルティング (佐賀市)	
	株式会社峰組 (江北町)	有限会社進藤石油 (唐津市)
	医療法人純伸会矢ヶ部医院 (佐賀市)	
	医療法人吉松皮フ科 (佐賀市)	こが歯科 (鳥栖市)
	医療法人貝原医院 (武雄市)	山崎建設株式会社 (佐賀市)
	株式会社森商会 (有田町)	
	株式会社栗原建設 (武雄市)	吉村自動車整備工場 (佐賀市)
	株式会社CRCCメディア (福岡県久留米市)	
	SAGA久光スプリングス株式会社 (鳥栖市)	

(3) 佐野祭

佐野常民初代社長の命日にあたる12月7日に、佐賀市川副町早津江の生誕地において、佐野常民顕彰会の主催により遺徳を顕彰する佐野祭が執り行われました。

この慰霊祭には、佐野常民顕彰会並びに赤十字有功会、赤十字施設幹部職員などの赤十字関係者と地元有志など約60人が参加しました。

終了後、今年も地元の佐賀市立中川副小学校の児童が青少年赤十字誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌を合唱しました。



佐野祭の様子

(4) 博愛フェスタ 2023

12月3日から17日までの期間、「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」において、博愛精神の普及と啓発を目的として、佐賀市、佐賀市教育委員会、佐野常民顕彰会、日本赤十字社佐賀県支部の共催による「博愛フェスタ 2023」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「第20回全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等110の小・中学校や絵画教室から応募のあった1,485点の中から97作品に対し、各賞が授与され、博愛大賞には本田周也さん（埼玉県さいたま市立大宮小学校2年生）の『お兄ちゃんと海で遊ぶぼく』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、歴史館に展示されました。



発表の様子

(5) 防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」

日本赤十字社では毎年3月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

また、東日本大震災から12年が経ち、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを目指し、令和2年度からは、プロジェクト名を新たに「ACTION!防災・減災」として実施してい

ます。主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式 SNS での投稿により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業1社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

(6) 世界赤十字デー記念イベント

赤十字の創始者であるアンリー・デュナンの生誕日5月8日の「世界赤十字デー」には、毎年全国各地で様々なイベントが行われています。佐賀県支部では、5月に広報活動を集中して実施したほか、年間を通して県内20市町の地区・分区と共催し、赤十字防災セミナーや救急法講習を実施しました。

(7) その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 広報誌等の発行

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ346,500部を作成し、5月の赤十字運動月間に県下ほぼ全世帯に配布しました。

また、支部発行の機関紙「赤十字さが」88号(春号)を17,000部、89号(秋号)を15,000部作成し、地区・分区を通じ回覧するとともに、有功会会員はじめ赤十字関係者に配布しました。

本社の発行物として、「赤十字NEWS(新聞)」1,600部を毎月赤十字関係者に配布し、年2回発行の広報誌「Cross com-BOOK」を会員全員に発送しました。また、本社制作の赤十字運動月間用の広報ポスターやリーフレットを各地区・分区や県内赤十字施設に配布しました。



『赤十字さが』



赤十字NEWS(新聞)



5月運動月間広報ポスター

イ 赤十字白い羽根シール

小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ プレスリリース・寄稿

新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、災害時の救護活動情報や義援金・救援金受付や贈呈式の情報の他「～佐野常民生誕200年記念～令和5年度九州八県赤十字大会」の開催や海外たすけあい募金の実施に際し、プレスリリースを送付し、随時取材依頼を行いました。

また、令和5年5月より佐賀新聞の防災企画「防災さが」の紙面において、防災・減災に関することを中心に『日赤通信～「いのち」をまもろう～』と題したコラムを月1回掲載しました。

佐賀新聞『日赤通信～「いのち」をまもろう～』の記事の内容

掲載月	テーマ
5月	【地震】転倒、落下・・・家具の安全確認を
6月	【水害】「マイタイムライン」で逃げ遅れ防止
7月	【水の事故防止】「水は楽しい。でも、あぶない」
8月	【災害時の連絡手段】メール、SNS・・・複数検討を
9月	【AED】命救う協力を 健康も心がけ
10月	【子どものための防災】非常持ち出し品、避難経路・・・事前準備を
11月	【正常性バイアスと同調性バイアス】率先して避難する人になろう
12月	【気道異物】餅などが喉に詰まったら
1月	【能登半島地震】派遣された被災地から
2月	【ACTION！防災・減災】命のために今うごく
3月	【こころのケア】被災地の救護活動の柱

エ 事業紹介等パネルの活用

赤十字運動月間や地区・分区並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部で作成したパネルを積極的に貸出・展示し、活用しました。

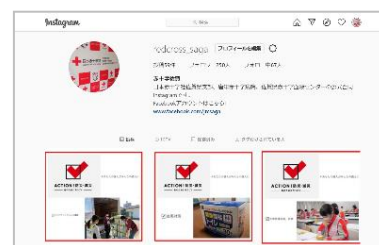
オ ホームページでの情報発信

日本赤十字社佐賀県支部ホームページにて、支部の活動報告の記事を積極的に発信し、12ヶ月で66件掲載しました。また、令和5年7月7日からの大雨災害や令和6年能登半島地震災害の際には、救護活動の状況について、トピックスを通じて即時に報告を行いました。

カ 3施設合同 Instagram

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの3施設合同で運用を行っている『3施設合同 Instagram』では、各施設の活動について最新の情報を発信し、日赤への関心向上に努めました。

- ① フォロワー数 705人（令和6年3月末現在）
- ② 投稿に対するいいね数 2,847件
- ③ 年間投稿数 58本



また、動画による情報発信を行っていくために、3施設合同 YouTube アカウントを新たに開設しました。

キ 3施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する3施設合同広報委員会を隔月開催しました。

また、「～佐野常民生誕200年記念～令和5年度九州八県赤十字大会」で九州八県支部が制作したオープニング動画に使用する事業紹介動画を、県内の各施設から提供しました。

ク 5月の赤十字運動月間イベント

佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様にも周知しました。また、久光製薬株式会社並びに唐津市近代図書館（新規）にご協力いただき、赤十字レッドライトアップを行いました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



レッドライトアップ
（唐津市近代図書館）

7 赤十字会員及び活動資金の増強

(1) 会員数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。

(各年度末現在)

区 分	令和5年度			令和4年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員 ^{※1}	1,317	635	1,952	1,428	658	2,086	△111	△23
協力会員 ^{※2}	223,431	11	223,442	223,581	10	223,591	△150	1
合 計	224,748	646	225,394	225,009	668	225,677	△261	△22

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 目安として年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

(2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。

(令和6年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和5年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員 ^{※3}	226	236	462	8	22
銀色有功章社員 ^{※4}	375	507	882	22	21
特 別 社 員 ^{※5}	3,911	1,422	5,333	52	14

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額2万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人

(3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

(ア) 第1回 地区・分区事務長会議

・日時：令和5年7月20日(木)

・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和4年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明するとともに、「～佐野常民生誕200年記念～令和5年度九州八県赤十字大会」で当日のスタッフ協力について要請を行いました。



(イ) 第2回 地区・分区事務長会議

- ・日時：令和6年3月12日（火）
- ・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和5年度の間業務報告、令和6年度事業計画、令和6年度一般会計歳入歳出予算等について説明するとともに、令和5年度九州八県赤十字大会（佐賀大会）の実施報告や令和6年能登半島地震災害での活動報告を行いました。

イ 地区・分区担当者研修会

- ・日時：令和5年4月26日（水）
- ・場所：佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 会議室

各地区・分区の赤十字担当者が参加する地区・分区担当者研修会を5年ぶりに開催しました。今回初めて参加される担当者も多く、佐賀県支部の職員紹介や赤十字の地区・分区業務について説明を行い、佐賀県で開催される九州八県赤十字大会への協力要請を行いました。

また、令和3年9月にリニューアルオープンした「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」を見学した後、「博愛のこころを未来へ」というテーマでグループワークを行い、赤十字関係者としての親睦を深めました。

(4) 令和5年度活動資金募集実績

ア 総括表

(令和6年3月31日現在) 単位：円

区 分	令和4年度(A)	令和5年度(B)	B/A %
一 般 社 資	118,813,104	139,622,543	117.6
支部扱	18,503,258	39,385,336	212.9
一 般	17,663,258	38,855,336	220.0
使 途 指 定	840,000	530,000	63.11
地区分区扱	100,309,846	100,237,207	99.9
法 人 社 資	17,211,935	38,741,670	225.1
支部扱	15,981,785	37,361,723	233.8
一 般	15,881,785	27,261,723	171.7
使 途 指 定	100,000	10,100,000	10,100.0
地区分区扱	1,230,150	1,379,947	112.2
合 計	136,025,039	178,364,213	131.1
※使途指定を除く	135,085,039	167,734,213	124.2

※ 使途指定：唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金

イ 支部、地区分區別実績一覧

	市 町 名	対象世帯 ①	令和5年度目標額	実 績 額(円)				前年度実績 (円)
			(①×600円)	一般	法人	計	前年度 比(%)	金額
			千円未満四捨五入	②	③	②+③		
支 部 扱	個 人		9,500,000	39,385,336		39,385,336	212.9	18,503,258
	法 人		13,557,000		37,361,723	37,361,723	233.8	15,981,785
	計 A		23,057,000	39,385,336	37,361,723	76,747,059	222.6	34,485,043
地 区 分 区 扱	佐 賀 市	65,606	39,364,000	19,318,749		19,318,749	99.5	19,415,814
	唐 津 市	31,134	18,680,000	11,937,785	18,821	11,956,606	97.1	12,318,524
	鳥 栖 市	22,016	13,210,000	6,820,500		6,820,500	106.0	6,433,000
	多 久 市	5,072	3,043,000	3,229,510		3,229,510	99.8	3,235,884
	伊 万 里 市	14,375	8,625,000	5,213,238		5,213,238	98.3	5,305,420
	武 雄 市	13,571	8,143,000	8,542,658	7,000	8,549,658	99.7	8,577,364
	鹿 島 市	7,793	4,676,000	4,797,250		4,797,250	107.5	4,461,050
	小 城 市	12,864	7,718,000	7,452,507		7,452,507	103.1	7,231,908
	嬉 野 市	6,766	4,060,000	3,871,000	600,000	4,471,000	104.6	4,275,000
	神 埼 市	8,935	5,361,000	5,257,400		5,257,400	94.2	5,580,000
	市地区計 a	188,132	112,880,000	76,440,597	625,821	77,066,418	100.3	76,833,964
	吉野ヶ里町	4,655	2,793,000	2,553,000		2,553,000	98.6	2,588,400
	基 山 町	5,375	3,225,000	2,692,600	200,000	2,892,600	98.4	2,940,600
	み や き 町	7,315	4,389,000	4,980,100		4,980,100	100.2	4,967,800
	上 峰 町	2,792	1,675,000	1,785,200		1,785,200	100.2	1,782,400
	中部管内計	20,137	12,082,000	12,010,900	200,000	12,210,900	99.4	12,279,200
	玄 海 町	1,344	806,000	831,000	13,126	844,126	84.9	994,492
	北部管内計	1,344	806,000	831,000	13,126	844,126	84.9	994,492
	有 田 町	5,485	3,291,000	2,606,760	341,000	2,947,760	98.8	2,984,520
	大 町 町	1,729	1,037,000	1,269,600		1,269,600	99.0	1,282,200
江 北 町	2,748	1,649,000	1,832,400	200,000	2,032,400	110.4	1,840,400	
白 石 町	5,986	3,592,000	3,907,600		3,907,600	97.9	3,992,800	
太 良 町	2,258	1,355,000	1,338,350		1,338,350	100.4	1,332,420	
西部管内計	18,206	10,924,000	10,954,710	541,000	11,495,710	100.6	11,432,340	
町 計 b	39,687	23,812,000	23,796,610	754,126	24,550,736	99.4	24,706,032	
a + b = B	227,819	136,692,000	100,237,207	1,379,947	101,617,154	100.1	101,539,996	
総 計 A + B		227,819	159,749,000	139,622,543	38,741,670	178,364,213	131.1	136,025,039

8 支部評議員会の開催

(1) 令和5年度第1回支部評議員会 令和5年6月12日（於日赤佐賀県支部）

第1号議案 令和4年度事業報告について

第2号議案 令和4年度一般会計歳入歳出決算について

第3号議案 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

そ の 他 佐賀県赤十字血液センターの令和4年度事業報告について

(2) 令和5年度第2回支部評議員会 令和6年2月8日（於日赤佐賀県支部）

第1号議案 令和6年度事業計画について

第2号議案 令和6年度一般会計歳入歳出予算について

第3号議案 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

そ の 他 佐賀県赤十字血液センターの令和6年度事業計画について



令和5年度 唐津赤十字病院事業報告

令和5年度の重点的取組み

令和5年度は3つの重点項目である「安心・安全な医療の提供」、「地域医療連携の強化」、「働き方改革の推進」のもと、各重点項目に沿った行動計画を実践し、「経営状況の健全化」に努めました。

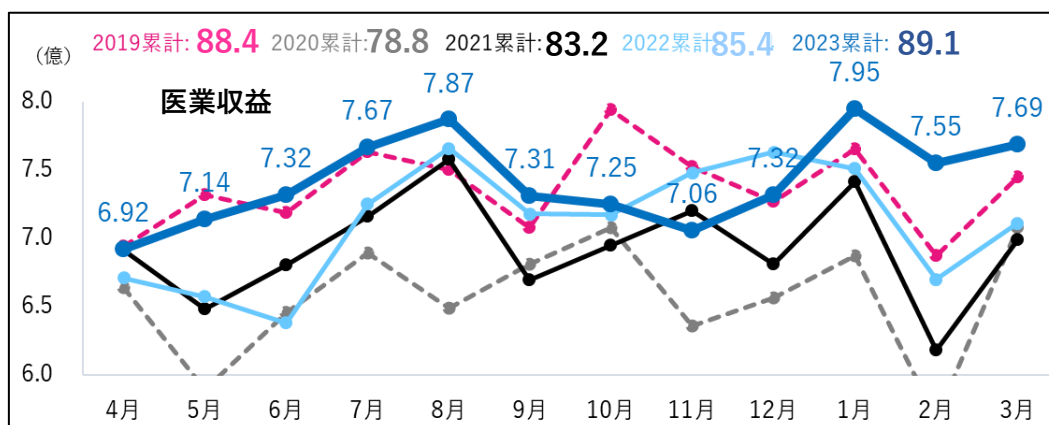
○直近5年間の経営状況

(単位：百万円)

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
医業収支	▲405	▲973	▲743	▲1,053	▲1,166
コロナ関連補助金		861	1130	1,395	153
総収支	282	419	952	855	▲525

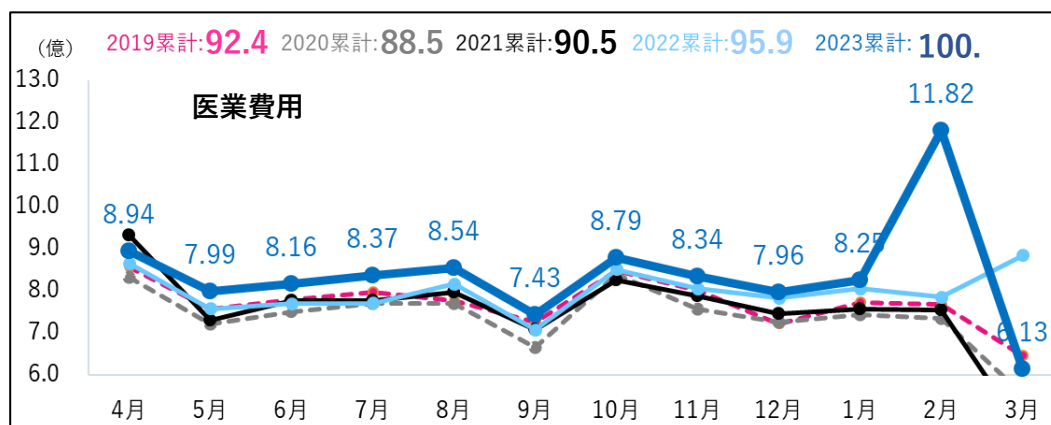
・全体の収支は、収益の回復はあるものの、費用増加とコロナ補助金の中止に伴って5年ぶりに約5億2500万円の赤字となりました。

○ 医業収益の回復



・医業収益は前年度比+4.3%。患者数の増加により入院・外来ともに収益が増加しました。

○ 医業費用の適正化



・医業費用は、前年度比+5.0%。2月は電子カルテ更新により+3.5億円費用処理しています。

・医薬品費等の材料費が、医業収益の増加率（+4.3%）を上回る+6.8%と増加しています。

○入院・外来患者数の推移

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入院患者延数	99,778	84,833	82,920	83,111	93,559
外来患者延数	124,122	108,125	111,266	112,041	117,866

・新型コロナ禍前のR元年度を目標としています。

○診療報酬改定への対応

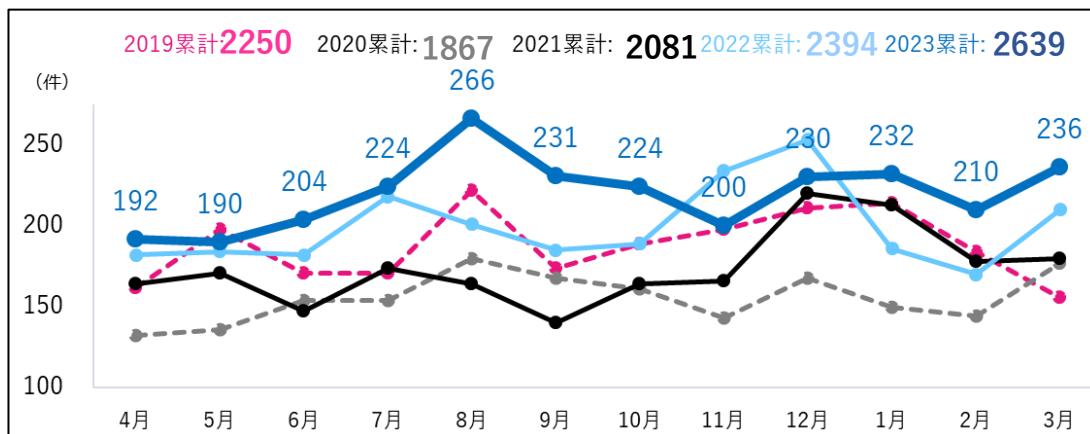
・昨年度の「二次性骨折予防継続管理料」等の新規届出に続き、今年度は摂食嚥下機能向上委員会を立ち上げ、「摂食嚥下機能回復体制加算」の新規届出の検討を重ねています。

I 安心・安全な医療の提供

(1) 唐津赤十字病院が担うべき医療の提供

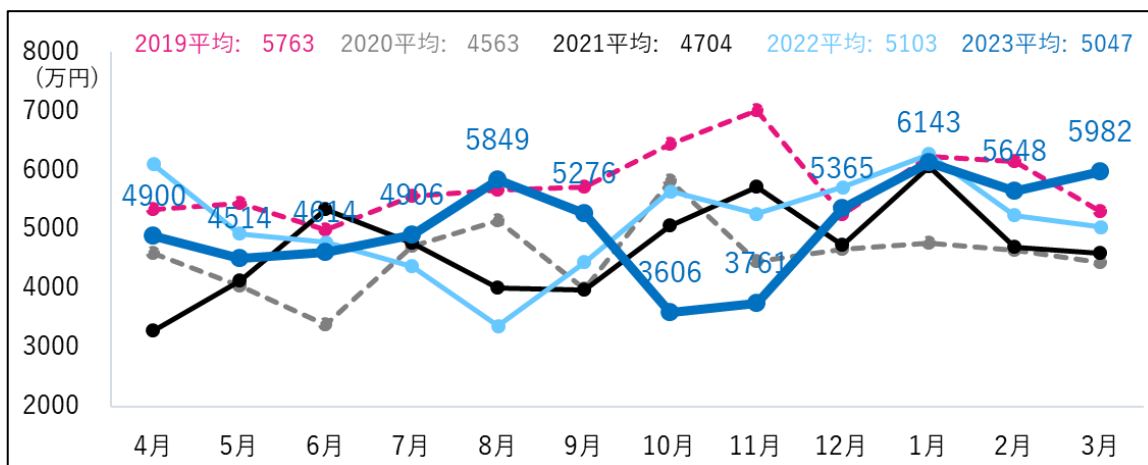
①救急医療

救急車受入件



・救急車の受入件数は、過去5年間で最多となっています。「地域医療体制確保加算」の施設基準の要件では年間実績が2000件を超えることとなっており、2023年は要件を満たしています(1~12月:2527件)。

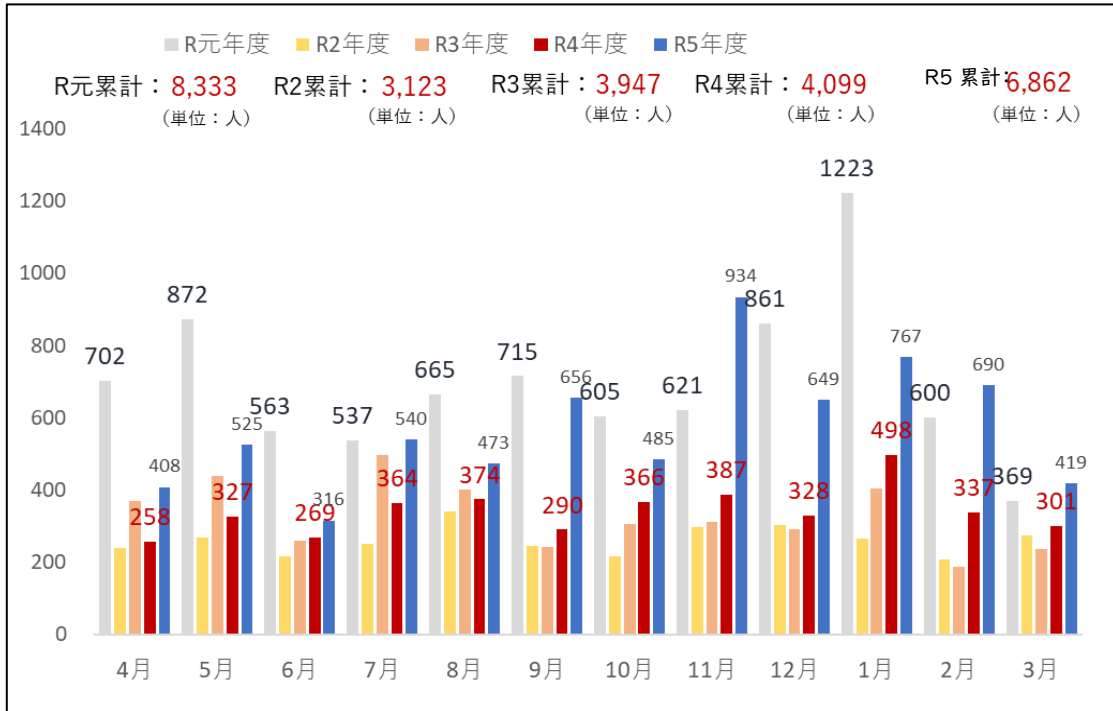
地域救命救急センター稼働額



・救急車受入件数が前年度比+10.2%と増加しましたが、地域救命救急センターの稼働額は前年度比-1.1%と減少しました。救急医療管理加算等の算定漏れ防止に取り組み中です。

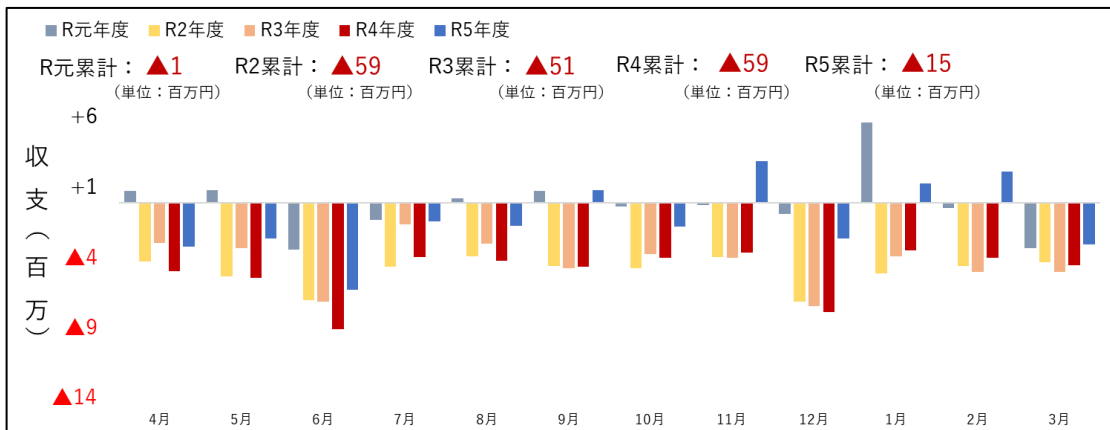
②小児医療

小児救急センター患者数



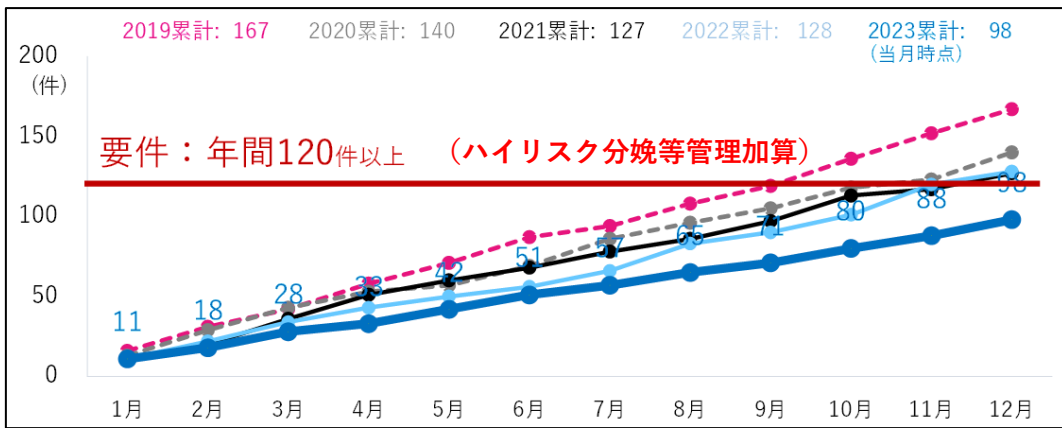
・小児救急センター患者数は、R4.9月から回復傾向が継続しています。

小児救急センター収支状況



・患者数の増加に伴い、収支状況に改善の兆しが見られますが、年間で約1500万円の損失を見込んでいます。

③周産期医療
分娩件数



・分娩件数は、少子化の影響と新型コロナの影響により毎年減少し、過去5年間で最少となり要件を達成できず、加算の届出を辞退しました。

④感染症医療

感染症病床への新入院患者数 (月次推移)

※令和6年3月末時点

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令2	8	3	0	8	13	1	0	1	10	41	5	12	102
令3	34	75	5	16	119	49	12	5	9	104	79	65	572
令4	95	54	32	112	139	71	40	83	127	96	20	14	883
令5	11	9	14	31	62	23	14	1	20	23	24	16	248
													合計
													1805

- ・R5. 5月の感染法上の5類移行後もコロナ患者の受け入れを継続しています。
- ・コロナ補助金は大幅に減少となっています (R4: 14.5億円→R5: 1.5億円)。

⑤災害医療

令和6年能登半島地震にかかる応急対応

派遣チーム数	派遣人数 (日赤佐賀県支部職員も含む)	活動内容と活動場所
医療救護班 3班	22人 医師: 4人 看護師: 9人 メディカルスタッフ: 3人 事務職員等: 6人	避難所の衛生管理や避難者の健康管理、巡回診療 (石川県七尾市)
日赤災害医療コーディネータチーム 1班	4人 医師: 1人 看護師: 1人 薬剤師: 1人/事務職員: 1人	関係機関との連携及び救護班の活動調整 (石川県能登町保健医療調整本部)

・1月12日から2月9日にかけて医療救護班3班と日赤災害医療コーディネータチーム1班の合計4班を被災地に派遣しました。医療救護班は石川県七尾市で避難所の衛生管理や避難者の健康管理を、日赤災害医療コーディネータチームは石川県能登町で日赤救護班やこころのケア班の効果的・効率的な活動の調整業務をそれぞれ行いました。

令和5年7月九州北部豪雨災害にかかる応急対応

派遣人数 (日赤佐賀県支部職員も含む)	活動内容と活動場所
看護師：13人	災害ボランティアの健康管理、熱中症やケガ等の手当てなど (唐津市災害ボランティアセンター)

・7月14日から23日の10日間、唐津市浜玉町に開設された唐津市災害ボランティアセンター内に設置された臨時救護所に看護師合計13名を派遣しました。災害ボランティアの健康管理、熱中症やケガ等の手当てなどを行いました。

・DMAT指定医療機関としてDMATを2班、日本赤十字社として常備救護班を3班常設し、国内で災害が生じた際の派遣要請に応じられるよう体制整備に努めました。

・唐津赤十字病院、佐賀県支部、血液センターの県内3施設からなる「日本赤十字社佐賀支部災害救護員会」を設置し、方針の統一や計画的な人材育成等を行いました。

(2) 質改善活動

① 質の高い医療の提供

クリニカルパスの活用

	合計		
	症例数(件)	適用数(件)	適用率(%)
2019	3603	2032	56.4
2020	3194	1815	56.8
2021	3017	1630	54.0
2022	2839	1502	52.9
2023	3215	1737	54.0
対前年度比	113.2	115.6	

・医療資源を効率的に活用し、かつEBM²に基づいた医療を実践するため、クリニカルパス³の活用を推進しています。

・クリニカルパスの適用率は60%を目標としました。新型コロナ以降減少し現在は回復傾向にありますが、コロナ禍前の実績まで回復が得られていません。

② 患者満足度の向上

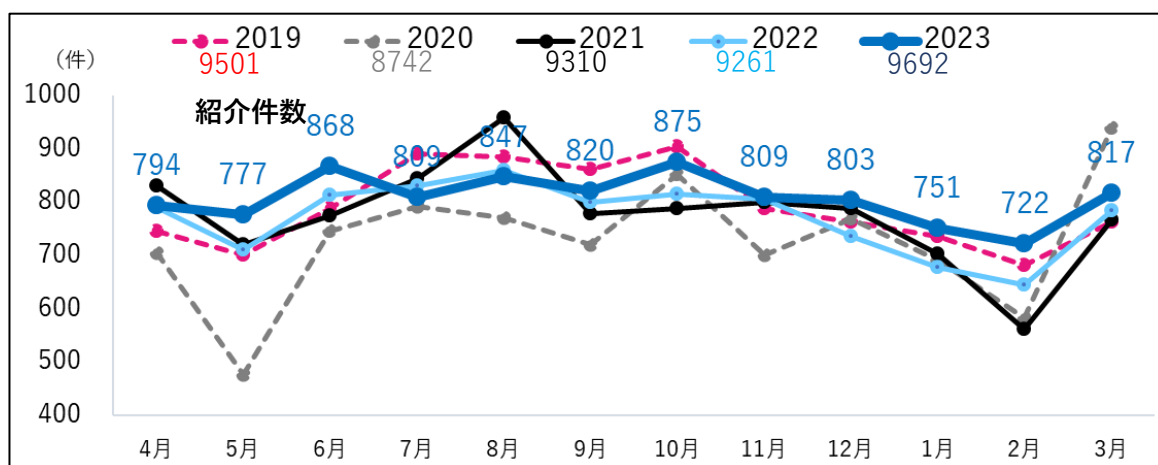
・11月に患者満足度調査を外来・入院ともに実施しました。結果は総合満足度において「満足」「やや満足」の割合は外来87.0%、入院95.1%。前年度比は外来-3.3%減、入院+2.3%増となりました。

・院内各所に設置したご意見箱から患者さんのご意見やご要望を収集し、患者サービス向上委員会で毎月検討を行い、改善活動に努めています。

2 地域医療連携の強化

(1) 地域医療支援病院としての機能強化

①地域医療機関との連携



- ・4月から5月にかけて、病院長と患者総合支援センター職員が、直接地域の医療機関を訪問し、紹介依頼をしました。計71医療機関（前年度比+115%増）。
- ・患者紹介用パンフレットと逆紹介用地域マップを作成し、地域の医療機関との連携強化に努め、集患数アップを図りました。



『診療のご案内』

- ・患者紹介用パンフレット
- ・259の医療機関に送付

『地域連携医療機関一覧』

- ・逆紹介用地域マップ
- ・93医療機関を掲載

②PFM（ペイシェント・フロー・マネジメント）⁴の推進

PFM 介入件数（月次推移）

※令和6年3月末時点

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令2	12	16	32	23	26	24	41	33	25	26	30	37	325
令3	37	23	22	31	33	31	49	31	50	41	56	46	450
令4	46	50	33	57	37	36	62	55	46	57	51	62	592
令5	50	51	60	49	52	51	64	64	64	49	60	74	688

- ・円滑な入退院支援のため早期から患者さんの病状・生活状況などの情報収集を行い、退院転院に向けた支援・調整に着手するPFMを推進してきた。
- ・介入対象とする疾患数を増加させたことにより過去5年間で最多となりました。

③高度医療機器の共同利用

- ・CT・MRI装置の共同利用を推進するため、直近5日分の空き状況を地域医療機関に毎日配信しています。

(2) 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

①高度医療機器

- ・昨年度放射線治療装置を更新し、少しずつ症例数を増加させています。

R3年度↵	R4年度↵	R5年度↵
6,383件↵	10,088件↵	10,468件↵

②市民公開講座

- ・本年度も「市民公開講座 -がんと口腔ケア-」を継続して実施し、YouTubeで配信しています。

③患者への支援体制

- ・初発がん患者に対する告知後の支援窓口を開設・運用しています。

3 働き方改革の推進

(1) 医療従事者の負担軽減

- ・タスク・シフト、タスク・シェアについて医療従事者等負担軽減委員会で年間計画を策定し、計画に基づき各職種で研修を受講するなど取り組みを進めています。
- ・医師事務作業補助者を2名増員し、外来での陪席業務（8外来）を拡大しています。

(2) 医療従事者の確保対策

医師の確保

- ・救急科は3名体制、小児科は7名体制、産婦人科は3名体制と安定的な診療体制を構築できています。
- ・令和5年度は新たに4名の研修医を受け入れ、計8名の研修医が在籍しています。

看護師・助産師の確保

- ・看護師の採用活動はコロナの影響で応募数が減少しており、採用活動の更なる活性化を検討しています。
- ・認定看護師育成のため、1名を長期研修に派遣しています。

(3) 職員満足度の向上

- ・ストレスチェックを10月に実施し、高ストレス者に対してカウンセリングを受けるよう案内しています。
- ・職員満足度調査を12月に実施し、得られた結果をもとに職場環境の改善に努めています。

用語解説

1 日赤災害医療コーディネートチーム

- ・災害救護活動が効果的・効率的に行われるよう関係機関との連携及び救護班の活動調整等を行うチームのこと

2 EBM

- ・Evidenced-Based Medicineの略称、科学的根拠に基づいた医療のこと。ガイドライン等の入手可能で最良の科学的根拠を把握した上で、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行うための一連の行動指針。

3 クリニカルパス

- ・患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法のこと。

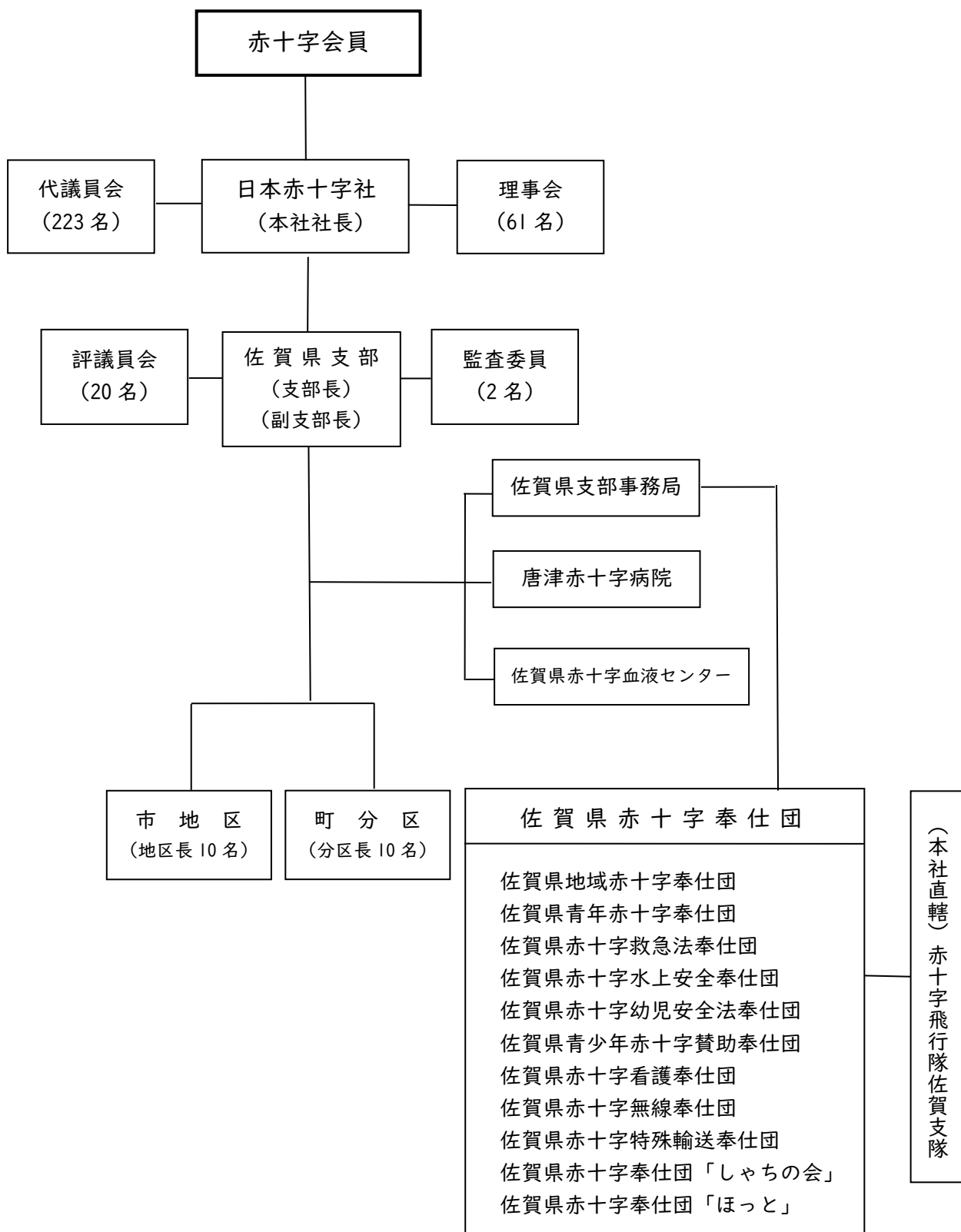
4 PFM

- ・Patient Flow Managementの略称、入退院に関連する多職種が連携しながら仕事を行い、患者の身体的・精神的・社会的側面の問題をとらえ、退院後を見据えて、最適な医療を提供する手法のこと。

佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組織

(R6年3月31日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員（R6年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支部長	山口 祥義	佐賀県知事
副支部長	峰 達郎	唐津市長
支部監査委員	西 清澄	元佐銀リース(株)代表取締役社長
	山田 恭輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員(R6年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名 等
理事・代議員	中富 一榮	久光製薬(株)代表取締役社長
代議員	中山 弘志	(株)中山ホールディングス 代表取締役社長

ウ 佐賀県支部評議員(R6年3月31日現在)

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	西 清澄	支部長	元佐銀リース(株)代表取締役社長
2	坂田 勝次	支部長	株式会社佐賀新聞社専務取締役
3	山口 七重	支部長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	白井 誠	支部長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	伊東 博巳	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達郎	唐津市地区	唐津市長
8	向門 慶人	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横尾 俊彦	多久市地区	多久市長
10	深浦 弘信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小松 政	武雄市地区	武雄市長
12	松尾 勝利	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀次	小城市地区	小城市長
14	村上 大祐	嬉野市地区	嬉野市長
15		神埼市地区	
16	伊東 健吾	佐賀中部地区(神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	武廣 勇平	鳥栖地区(三養基郡)	上峰町長
18	脇山 伸太郎	唐津地区(東松浦郡)	玄海町長
19	松尾 佳昭	伊万里地区(西松浦郡)	有田町長
20	山田 恭輔	杵藤地区(杵島郡・藤津郡)	江北町長

任 期 自令和4年2月14日～至令和7年2月13日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（R6年3月31日現在）

職 名	氏 名
事務局長	川久保 三起子
総務課長	廣田 聡
事業推進課長	原 香織

オ 唐津赤十字病院（R6年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	宮原 正晴	脳神経外科部長	鈴山 堅志
副 院 長	生田 光	皮膚科部長	(欠)
副 院 長	田代 克弥	形成外科部長	(欠)
事務部長	村山 仁志	泌尿器科部長	明利 浩行
看護部長	成瀬 弘美	産婦人科部長	佐護 直人
病院長特別補佐	貞松 徳美	放射線診断科部長	小池 真生子
疾病予防センター長	冨栴 りか	放射線治療科部長	松村 泰成
医療安全推進センター長(兼)	生田 光	リハビリテーション科部長	仙波 英之
がん医療推進センター長(兼)	鮫島 隆一郎	麻酔科部長	嘉手川 繁登
教育研修推進センター長(兼)	長嶋 昭憲	救急科部長	中島 厚士
救命救急管理センター長(兼)	中島 厚士	病理診断科部長	明石 道昭
地域救急センター長(兼)	中島 厚士	歯科口腔外科部長	(欠)
患者総合支援センター(兼)	長嶋 昭憲	薬剤部長(兼)	田代 克弥
感染管理室長(兼)	田代 克弥	医療技術部長(兼)	仙波 英之
第1内科部長	野田 隆博	医療社会事業部長(兼)	酒井 正
第2内科部長	長嶋 昭憲	医療技術部技師長	小池 昭男
第3内科部長	福島 伯泰	薬剤課長	岩田 和弥
感染症内科部長	(欠)	栄養課長	池田 敦子
第1循環器内科部長	森 唯史	検査技術課長	川内 保彦
第2循環器内科部長	(欠)	放射線技術課長	江口 教久
小児科部長(兼)	田代 克弥	臨床工学技術課長(兼)	小池 昭男
第1外科部長	鮫島 隆一郎	リハビリテーション技術課長	麻生 昭秀
第2外科部長	井久保 丹	広報推進室長(兼)	村山 仁志
肝胆膵外科部長	神谷 尚彦	経営情報課長(兼)	貞松 徳美
乳腺外科部長	小原井 朋成	総務課長	徳田 孝久
呼吸器外科部長	小島 勝雄	会計課長	大森 崇生
整形外科部長(兼)	生田 光	医事課長	野方 宏紀
眼科部長	緒方 正虎	医療社会事業課長(兼)	村山 仁志
耳鼻咽喉科部長	(欠)	診療支援課長	松本 英成

カ 佐賀県赤十字血液センター（R6年3月31日現在）

職 名	氏 名
所長	松山 博之
事業部長	田中 幸徳
総務課長	廣畑 和代
献血推進課長	柴木 弘
採血課長	古賀 ひとみ
学術情報・供給課長	一ノ瀬 知早子
品質情報課長	大坪 正道
医務課長	山本 恵子

キ 専任職員数（R6年3月31日現在）

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	9名
唐津赤十字病院	499名
佐賀県赤十字血液センター	32名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和5年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県委員部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 224,797人
法人 625法人
(※ 協力会員を含む社資会員)

3. 役員

支部長 山口 祥義 (県知事)
副支部長 峰 達郎 (唐津市長)
評議員 20人 (定数)

(本社理事) 中富 一榮
(本社代議員) 中富 一榮 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	13園	1,244人
小学校	123校	28,212人
中学校	80校	20,964人
義務教育学校	6校	2,267人
高等学校	33校	10,133人
特別支援学校	4校	412人
計	261校(園)	63,257人
指導者数	5,581人	

(令和6年3月31日現在)

5. 赤十字奉仕団登録数

地域	22団	2,362人
青年	1団	24人
特殊	9団	215人
計	32団	2,601人

(令和6年3月31日現在)

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	64人	3,126人
水上安全法	29人	1,031人
健康生活支援講習	8人	260人
幼児安全法	19人	544人
防災セミナー	12人	906人

(令和6年3月31日現在)

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	63局
車両等	救急車	2台	災害救援車	7台
	災害連絡車	2台	サーベメータ	1台
資器材			線量計	42台
	エアテント	5張	パイプテント	27張
	ドックラッシュテント	1張	イージーテント	22張
	医療セット	2組	担架・ベット	46台
救援物資	NBC災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
	緊急セット	416セット	安眠セット	420セット
	毛布	1,264枚	非常食	578食
	バスタル	592セット	ブルーシート	110枚

(令和6年3月31日現在)

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	32科	病床数	304床
総患者数	211,425人			1日平均	
入院	93,559人			255.6人	
外来	117,866人			502.2人	

(令和6年3月31日現在)

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	18台
移動献血車(再掲)	2台	献血運搬車(再掲)	8台
献血者数	供給数(単位換算)		
成分献血	13,334人	成分製剤	78,793単位
400mL献血	19,572人	全血製剤	0単位
200mL献血	210人		
計	33,116人	計	78,793単位

(令和6年3月31日現在)

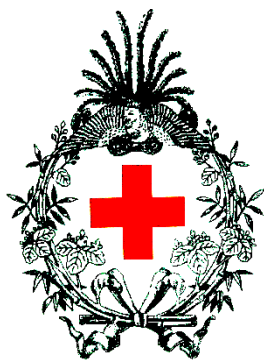
10. 会計(令和5年度歳入歳出決算) 単位:千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	258,921	213,223
唐津赤十字病院	9,636,558	10,161,563

11. 佐賀県赤十字有功会(平成9年発足)

会長 中富 一榮
会員数 90(人・法人)

(2024/3/31作成)



救うを託されている。

□ **日本赤十字社佐賀県支部**

〒840-0843 佐賀市川原町2番45号
〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184

□ **唐津赤十字病院**

〒847-8588 唐津市和多田2430番
〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530

□ **佐賀県赤十字血液センター**

〒849-0925 佐賀市八丁畷町10番20号
〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002